１　構想の要旨

亀岡市文化資料館には郷土の歴史・文化を伝える貴重な資料約 50,000 点が収蔵され、展示事業や出前授業等を通じて、市民の文化を豊かにすることに大いに役立ってきました。

しかし、昭和 60 年（1985）に開館した現在の資料館の建物は、もともと亀岡市立女子技芸専門学校（昭和 49 年竣工）の建物を転用したものであり、資料館として設計された建物ではなく、開館以来 30 年の活動の中で、新たな資料が追加収集され、以下のような課題が生じてきました。

１．収蔵・保存、調査・研究、展示をおこなうためのスペースの不足
２．来館者の生涯学習等に供することのできる空間の不足
３．文化庁の基準を満たさない保存環境（空調その他）
４．指定文化財の展示基準を満たさない展示空間
５．バリアフリー的な施設となっていないこと（トイレ、エレベーターなど）

このような現状を受けて、文化資料館では、上記の課題を解決し、亀岡市民にとって真に文化的な施設とするための検討をおこなう「亀岡市新資料館構想策定委員会」を立ち上げ、平成 26 年度、27 年度の 2 年間にわたって議論を重ねてきました。その結果、文化資料館の収蔵資料は亀岡という枠を超え、全国的にも貴重な資料であることが再確認されました。

これらの貴重な資料を長く未来に伝えるとともに、広く亀岡市民に役立つものとするため、学校を転用した、老朽化の進む現在の資料館ではなく、以下に述べるような適正な規模・機能・人員配置を考慮した単独館として、新資料館を新築し、「登録博物館」（博物館法）や国宝・重要文化財の公開に適した「公開承認施設」（文化財保護法）の機能を有する必要があるとの結論を得ました。

１．文化庁が指示する立地条件で、屋外で体験学習ができる十分な面積であること
２．特に収蔵庫は、今後も増える文化財を十分に収蔵できるだけの余裕が必要であること
３．博物館としての専門的なスペースの他に、市民との共有・交流の場を備えること
４．専門職としての学芸員を配置すること

さらに、亀岡市文化資料館友の会をはじめ、亀岡市民からは、新資料館に次のような要望が寄せられています。

１．亀岡の歴史・文化・ふるさとの偉人のことがわかるところ
２．亀岡の文化財・宝物を守り伝え、重要文化財などが展示できるところ
３．だれでも利用でき、協働でつくる博物館であること

以上のような新資料館を作ることで、市民の文化的生活についての要望を満たし、住むにふさわしい魅力ある都市として、亀岡の未来を拓くために、大きく資するものと確信するものです。

2　亀岡市文化資料館の現状

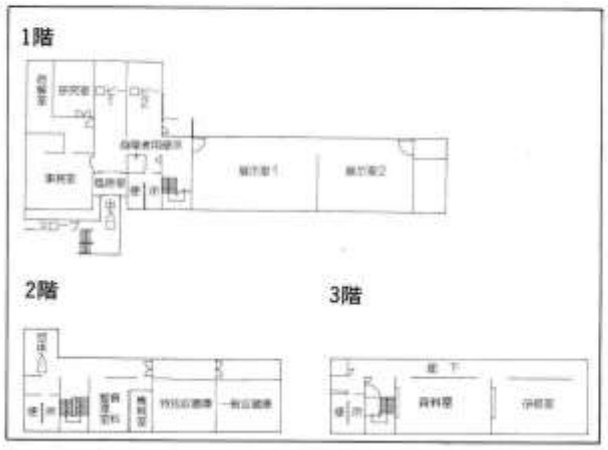
（1）施設概要

閉校となった亀岡市立女子技芸専門学校の校舎を改造し、昭和 60 年 11 月に、亀岡市文化資料館として開館しました。

◆施　設　面　積◆

所　在　地	〒621 亀岡市古世町中内坪１番地		構　造	鉄筋コンクリート造３階建	
敷地面積	６，０２７．４７㎡	建築面積	７５０．９６㎡	延床面積	１，３８２．９８㎡
１	階	２	階	３	階
主な部屋名	面　積	主な部屋名	面　積	主な部屋名	面　積
展示室１	１６１．２８㎡	特別収蔵庫	６０．４８㎡	資料室	９０．７２㎡
展示室２	１２０．９６㎡				
ロビー１	３４．７３㎡	一般収蔵庫	６０．４８㎡	研修室	９０．７２㎡
ロビー２	３０．３９㎡				
研究室	３７．６２㎡	資料整理室	４９．９８㎡		
荷解室	２３．１５㎡				

◆各　階　平　面　図◆



当館特別収蔵庫の現状

当館一般収蔵庫の現状

当館敷地内プレハブ収蔵庫に満杯の民具の現状

千歳町にある千歳収蔵庫に満杯の大型民具の現状

（2）所蔵資料概要

資料の種類	主な資料名	数量	収蔵場所
古文書	亀山藩史料（**京都府指定文化財**）	198 点	特別収蔵庫
古文書	杉原家文書・矢田家文書	約 4 万点	特別収蔵庫
古文書	亀岡高等女学校関係資料（明治～昭和）	239 点	3 階資料室
古文書	足利高氏願文（**京都府指定文化財**）	1点	特別収蔵庫
古文書	永田家文書ほか寄贈資料（古文書等）	約 5,000 点	特別収蔵庫・一般収蔵庫
美術・工芸	金輪寺鰐口（**京都府指定文化財**）	1 点	特別収蔵庫
美術・工芸	二代目村正脇指（**亀岡市指定文化財**）等刀剣	10 点	特別収蔵庫
美術・工芸	半頬（伝明智光秀所持）	1 点	特別収蔵庫
美術・工芸	形原松平家ゆかりの甲冑等、甲冑	6 点	特別収蔵庫
絵画	出雲神社牓示図（**亀岡市指定文化財**）	1 点	特別収蔵庫
考古資料	坊主塚古墳出土遺物（**亀岡市指定文化財**）	一括	特別収蔵庫
考古資料	市内遺跡出土遺物	約 5,000 箱	一般収蔵庫・千歳収蔵庫・一の宮収蔵庫ほか
民俗資料	亀岡の寒天製造用具（**国登録有形民俗文化財**）	517 点	一の宮収蔵庫
民俗資料	民具・農具・生活用具	約 1,000 点	プレハブ・千歳収蔵庫
民俗資料	鍛冶道具一式	約 400 点	一般収蔵庫
民俗資料	下駄製作用具一式	330 点	特別収蔵庫
民俗資料	船大工道具一式	804 点	プレハブ
民俗資料	奥条人形浄瑠璃用具（**京都府登録文化財**）	125 点	特別収蔵庫
標本	植物標本	約 6,000 点	収蔵庫前室など
標本	魚の標本	約 100 点	3 階
書籍	福知文庫［福知正温旧蔵資料］	図書 3,600 冊、資料 1,500 点	3 階資料室
書籍	堤文庫［堤圭三郎旧蔵資料］	約 2,000 冊	一般収蔵庫等
書籍	石田文庫（教科書類・郷土史など）	約 3,000 冊	1 階荷解室
書籍	自治体史・展示会図録・埋蔵文化財調査報告書	約 10,000 冊	3 階資料室・1 階ロビー・1 階研究室
写真版	写真版製本	3,600 冊	3 階資料室
フィルム	マイクロフィルム	2,100 本	1 階荷解室
フィルム	教育フィルム	155 点	収蔵庫前室
フィルム	写真フィルム	約 200 ファイル	3 階資料室
写真プリント	写真プリント	収納ボックス 250 箱	3 階資料室・1 階荷解室
資料目録	資料目録（約 1,300 資料群）	収納ボックス 60 箱	1 階荷解室
飼育展示資料	アユモドキと保津川水系の魚たち	約 70 匹	1 階ロビー

重要資料の一例

【古文書】亀山藩史料（京都府指定文化財）

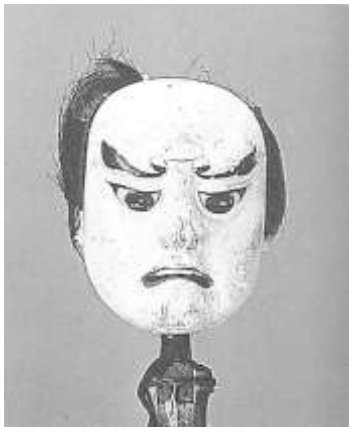
【美術・工芸】金輪寺鰐口（京都府指定文化財／寄託）

【美術・工芸】二代目村正脇指
（亀岡市指定文化財／寄託）

【美術・工芸】
半頬（伝明智光秀所持）

【考古】坊主塚古墳出土遺物
（**亀岡市指定文化財**）

【民俗】亀岡の寒天製造用具（**国登録有形民俗文化財**）



【民俗】奥条人形浄瑠璃用具のうち「頭」（**京都府登録文化財／保管**）

【美術・工芸】 亀山藩最後の藩主松平信正ゆかりの甲冑 「卯花威二枚胴具足」（寄託）

３　新資料館への視点　なぜ今新資料館なのか？

（１）亀岡市文化資料館の現状

老朽化と耐震レベルへの対応と、収蔵庫の満杯状態の解消が必要！

亀岡市文化資料館は、閉校となった亀岡市立女子技芸専門学校の校舎（昭和 49 年竣工）を改造して、昭和 60 年(1985)11 月に開館しました。以来、30 年間にわたり亀岡市における様々な分野の文化財に関して、収集・整理、調査・研究、展示・普及の事業を実施してきました。特に貴重な文化財を次の世代に伝えるべく、数多くの考古・歴史・民俗資料を収集保管しています。

しかし、本来、資料館として設計された建物ではないため、構造上の制約から、大型資料の展示ができない天井高の低い展示フロアとなっています。また、収蔵庫スペースも限られ、既に満杯の状態となり、廊下にも収蔵するありさまです。

建物としても、建築から 41 年経過して、雨漏りや備え付けの空調機器の不調など老朽化による不都合が多く起こっています。さらに、建設当時の基準のままでは耐震上の不安もあるなど、文化財を維持管理する上でも危機的現状であることも看過できません。新資料館の設置による早急な対応が不可欠であるといえます。

（２）文化財をとりまく現状

資料館は、地域をまもる砦となるべき！

昭和 30 年（1955）１月の１町 15 ヶ村の大合併による亀岡市市制施行以後、京都府内有数の耕地面積を有する自然環境豊かな地域でありながら、京阪神に隣接する立地環境から急速に都市化が進んできました。人々の暮らしも、昔ながらの、主として農業中心の大家族での生活から、核家族単位での生活が多くなり、家の中での暮らし方も、地域での共同作業の様子も随分と変わってきました。

時代の転換点に立つ現在、今の暮らしの背景に、これまでどのような暮らし方があったのかを理解することは、大変重要です。地域の歴史を理解することは、「住み続けたいまち」として、住環境の向上を図るためにも大切なことです。

資料館は、これまで使われてきた生活道具や農具の散逸を防ぎ、地域共同体の中で維持管理できなくなった仏像や講の古文書などを、人々の暮らしを物語る大切な資料として、また、地域が受け継いできた“たからもの”として、受け入れ、守っていく砦となる必要があります。

（３）市民の望む新資料館とは？ 利用者が幸せになる場所

地域の情報拠点として、だれもが気軽に集まって、わかりやすく、楽しく学べる！

亀岡市文化資料館による取り組みとは別に、市民からの声として、平成 25 年(2013)にはシンボルプロジェクトチーム「自然・文化・次代継承」による「新資料館構想の策定に向けたアンケート」が実施され、資料館の知名度と利用度の低さが大きな課題として判明しました。ただ、一方で、利用回数の多い来館者ほど、幸福度＝満足度がアップする資料館としての特色が見えました。いずれにしても、知名度の低さなどから新資料館の名称なども含めてこうした課題と傾向への対策も継続的に考える必要があります。

平成 26 年(2014)5 月には亀岡市文化資料館友の会によって『提言書～新資料館構想の策定に向けて～』が作成され、市民の立場から「集い学べる資料館」「夢と誇りを育てる資料館」という目指すべき姿と 10 項目の提言をいただきました。

（４）生涯学習推進の重要な施設として資料館機能の充実が必要！

人々と共に、「亀岡の“たからもの”」を未来に伝えるために

亀岡市の行政・教育の理念として「水・緑・文化が織りなす」まちとし、「ふるさと大好き」な子どもたちを育て、「歴史と伝統を生かす」まちづくりがうたわれています。ここにも、なぜ今新資料館なのか？の大きな理由が含まれているといえます。まさに、そうしたまちづくり、人づくり、未来づくりの拠点、ふるさとの歴史・文化・自然を知り、先人の知恵を伝えるために、お互いの学びを高める場＝生涯学習の場としての充実が求められています。

開館以来 30 年間にわたり収集・保管した各種文化財を、今のまちづくりなどに利用・活用して関心・理解を高めると同時に、ふるさと亀岡を特徴づける「亀岡の“たからもの”」として次の世代へ伝える使命は重大です。

なぜ今新資料館なのか？市民一人一人が、学び楽しみながら亀岡の未来を拓くためには、新資料館として、機能の充実を図ることが必要不可欠なのです。

＜参考添付資料＞

＊『亀岡市民憲章』　憲章「歴史と伝統を生かし、先人の知恵が香る文化のまちをつくります」（p.22）
＊亀岡市文化資料館友の会『提言書～新資料館構想の策定に向けて～』
目指すべき姿と 10 項目の提言　（p.24）

利用者・市民が考える資料館のイメージ

人づくり

資料館は、世代を超えて出会いのある場所。ここへ来たら、共に学べる、共に楽しめる。確かで、わかりやすい資料がある。信頼のできる場所として、更に充実を！

まちづくり

まちづくりとは、まちに愛着を持つこと。まちの歴史を知ること。となりづきあい＝横のつながりを大切にすること。資料館は、地域の情報拠点として、様々な情報を提供するだけでなく、情報のキャッチボールの出来る場所。そして、亀岡だけにとどまらない「京都丹波」という広い視野と、資料の収集・保存・公開などの資料館機能の強化を！

未来づくり

資料館をもっといっぱい活用してもっと充実した活動をしたい。そのために、実物・本物資料をもつ資料館の強みを、さらに生かす必要がある。学芸員は、資料と利用者の「仲介者」。学芸員が、専門知識で、資料と利用者をつなぐことにより、必要な情報が集まり、それが新たな資料収集と保存につながるはず。

これは、平成 22 年度に、新資料館構想について考えるための第一歩として、亀岡市文化資料館で開催した「資料館の将来を考えるためのランニングシンポジウム」（全 3 回）に参加いただいたみなさんから、寄せられた資料館への希望です。

この声援を受けて、ふるさと亀岡の将来を支えるための、人づくり、まちづくり、未来づくりを、新資料館という場所で実現する必要があります。

むずかしい、わかりにくい、かたい、くらい、せまい、くさい

これは、平成 23 年に開催した「夢資料館フォーラム」で出た、資料館へのイメージです。これも、資料館へのエール（声援）として、みなさんに、気楽に、わかりやすく、リラックスできる、明るく楽しい場所として、イメージしてもらえるように変わっていく必要があります。

＜参考添付資料＞

＊亀岡市新資料館構想策定委員会設置までの取り組み （p.29）

４　新資料館の基本的な性格

ふるさと亀岡を愛する心を育み、「ふるさと力」を高めるため、市民による市民のための生涯学習の実践場として、「みんなでつくろう私の資料館」の実現を目指します。地域の貴重なたからものを未来に伝え、子どもから大人まで、共に学び、共に楽しみ、集う場として、生涯学習都市亀岡にふさわしい新資料館の基本的な性格を掲げます。

（１）新資料館として、亀岡の“たからもの”を守るための「収集・保存」の基盤となる「収蔵庫機能」の充実を目指します。

新資料館は、亀岡地域の様々な文化財を守り伝えていくため、国宝や重要文化財級からふるさとにとって貴重な資料までを「収集・保存」する基盤となる「収蔵庫機能」の充実を目指します。

（２）新資料館として、情報提供の拠点＝「資料と利用者とをつなぐ資料館」を目指します。

新資料館は、亀岡地域の歴史文化等に関するあらゆる資料の収集整理・調査研究を行います。貴重な収蔵資料の内容を調べ、その意義を明らかにすることで、資料は初めて亀岡の“たからもの”となります。そのために、学芸員が専門的な立場・視点で情報や資料を整理し、市民や、亀岡を訪れる観光客にも、わかりやすく提供することで、資料と利用者をつなぐ役目を果たします。

（３）新資料館として、「登録博物館」あるいは「公開承認施設」レベルの施設を目指します。

例えば円山応挙の作品など、国宝や重要文化財として指定されている資料についても、収蔵保管・実物展示できるよう、博物館法における「登録博物館」や文化財保護法における「公開承認施設」となるレベルの新資料館を目指します。

（４）新資料館として、「ユニバーサルミュージアム」を目指します。

建物として維持管理のしやすさや、バリアフリーへの配慮は当然必要です。市民にとっても、亀岡を訪れる観光客にとっても、利用しやすく入りやすい新資料館として、誰もが楽しめる博物館＝ユニバーサルミュージアムを目指します。

（５）新資料館として、市民とともに歩み続ける地域活動の拠点＝「市民と市民をつなぐ資料館」を目指します。

資料館を拠点とした人々の交流のための「発信」、市民が参加・活用できるための「協働」、参加体験から郷土に楽しみ親しめる施設づくり「体験」の３要素を、各事業で積極的に展開します。

そのための「資料整理・展示・学習支援」と「資料閲覧室等」の充実を目指します。IT 機器の整備配置などにも努め、亀岡を訪れる観光客をはじめ、いつでも、だれでも、活用できる場を目指します。

＜参照添付資料＞

『亀岡市新資料館構想策定委員会中間報告書』より「亀岡市新資料館構想に向けて」（p. 43）

※ユニバーサルミュージアム

＝視覚に依存する一般的な博物館に対して、文化の違いや、性別、年齢の差、障がいの有無などにかかわらず、多くの人が利用できる「だれもが楽しめる博物館」として提唱されている。特別に設備を整えるのではなく、同じ設備の中で、見る・聞く・触るなど、五感を活用して体感できるように展示などを構成するもの。

※博物館の種類について

①博物館法による区分

種類	定義・内容
登録博物館（913 館）	博物館登録原簿に登録されたもの（博物館法第 2 条）。資料の整備、館長・学芸員・職員の確保、土地・建物の確保、年間 150 日以上の開館などが定められている。 登録博物館になるメリットとしては、資料を登録博物館に寄付すると、寄付者が税制上の優遇措置が受けることができる取り決めのために寄付をされやすいことや、展示会開催のために、借用した美術品の損害を国が一部補償する制度が適用されることなどがある。また、文化庁が提示する補助金の対象館として、登録博物館であることを条件とする場合が多い。
博物館相当施設（349 館）	登録博物館の要件は満たしていないものの、一定の要件を満たしている施設で、文部科学大臣あるいは都道府県教育委員会の指定を受けたもの（博物館法第 29 条）。 文化庁などが提示する事業に参加したり助成制度を受けたりする条件として、博物館相当施設であることが挙げられていることが多い。
博物館類似施設（4, 485 館）	上記 2 施設以外で博物館法に定められた博物館と同種の事業をおこなう施設。（根拠規定はないが、社会教育調査上、このように規定されている。）つまり博物館法の適用外の施設である。ほとんどの博物館はこの博物館類似施設である。

※館の数は、全国での数。平成 23 年度社会教育調査結果より

②文化財保護法による区分

種類	定義内容
公開承認施設（114 館）	文化財の公開活用の観点から，博物館の施設・設備などが耐火などの緒条件を満たしている場合、文化財の公開に適した施設として，文化庁長官の承認を受けることができる（文化財保護法第 53 条）。 承認されると、企画展等での重要文化財の公開手続きが、公開後の届出で可能となるなど、簡素化されるとともに、公開にともなう作品の応急修理費、梱包・輸送費、出品者への謝礼などを、文化庁が負担する重要文化財等公開促進事業に申請することができる。

※館の数は、全国での数。平成 27 年 11 月現在

５　新資料館の機能

（１）収集・保存活動

長く未来に資料を伝えていく役目を、十分に果たすことを目指します。

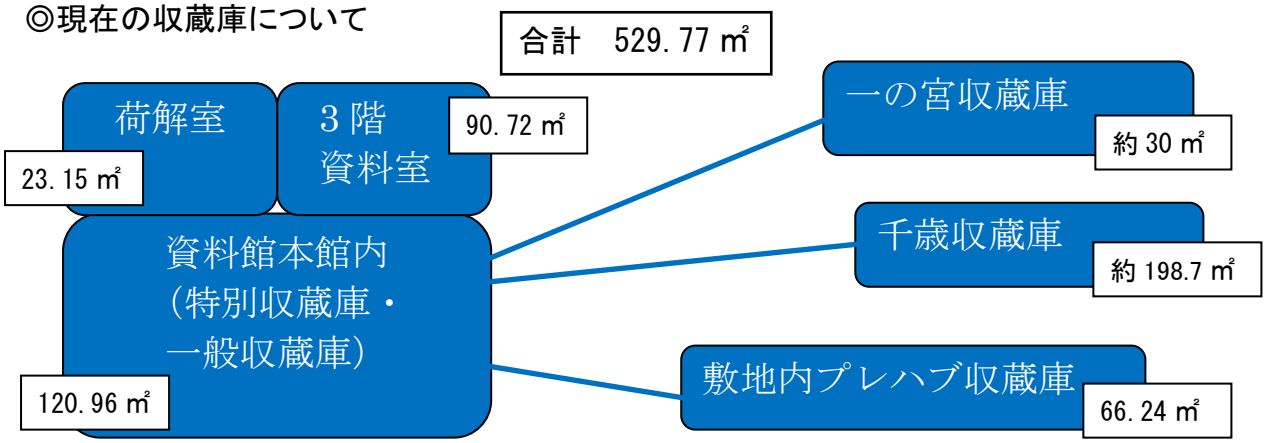
- 収蔵庫は、古文書・考古資料・民俗資料・美術工芸品・標本類などの分野ごとに収蔵場所を分け、資料の材質（紙・鉄・木・土・漆器など）に応じて、専門家としての学芸員の元で、適切な温湿度管理をおこなうことが必要です。

- 資料館資料として保存し、展示などに適切に活用するために、資料調査・資料整理を継続していきます。

- 考古資料については、発掘調査による出土遺物のすべてを資料館の収蔵庫に収納するのではなく、展示資料として利用できる資料を収蔵する方針とします。

- 歴史的公文書（後世に残すべき資料価値のある公文書）については、現在は、博物館資料の対象としていませんが、将来的には、歴史資料として位置付け、収集保管についても考慮が必要です。

◎現在の収蔵庫について



⇒現状では、本館内の収蔵庫には収まりきらず、資料館とは別の場所にも、主に大型民具などを収納していますが、防災面などで管理上不十分な部分もあります。新資料館としては、分散収納している分についても、館内に収納できるようにします。そのために、後述のように、収蔵庫・保管室あわせて 1,500 ㎡程度が必要です。

（２）調査研究活動

利用者と資料をつなぐ橋渡し役として、学芸員による調査研究活動の充実を目指します。

・ 調査・研究によって収蔵品の価値を明らかにし、亀岡の歴史に位置付け、未来への伝承、活用の道を探るためには、専門的知識を持った学芸員が必要です。また、資料目録や館報、研究紀要の刊行等、博物館における専門的業務を遂行するためにも、学芸員の配置が必要です。

・ 資料館への問い合わせは数多くあり、その内容は一般的なものから専門的な内容のものまで非常に幅広く、この質問への回答（レファレンス業務）をおこなうには、学芸員としての専門的知識が必要です。

（３）展示・学習支援活動

亀岡の歴史と文化について、わかりやすく紹介し、何度でも足を運んでもらえる展示を目指します。

・ 常設展では、豊かな自然環境の中で暮らしてきた亀岡の特徴を理解してもらうための導入部分を設け、亀岡盆地の成り立ち、地形の様子やアユモドキに代表される豊かな自然環境の特質など、自然分野の範囲も含めた展示をおこないます。

・ 古代から現代までの通史の部分と、いくつか亀岡での特徴的な時代・項目を中心に、地域の歴史が概観できるようにするとともに、四季折々におこなわれる祭礼行事など民俗行事についても、わかりやすく紹介し、暮らしが体感できるようにします。

・ 新たに文化財指定された資料や新収蔵品などを、タイムリーに紹介する展示もおこなっていきます。

・ 展示資料は実物資料を主体とします。亀岡祭の懸装品や円山応挙の作品などの大型資料も展示できるように天井高の確保は重要です。

・ 常設展・企画展・特別展いずれも、わかりやすさ、見やすさに配慮し、触る展示や IT 機器などを活用した展示案内なども積極的におこなうことで、これまで以上に、理解を深めてもらうことができるようにすることが必要です。

・ 展示解説ボランティアを導入することで、見学者がその場で質問も可能となり、展示内容に対してさらに理解を深めることができます。

・ 学校連携では、現在は、収蔵資料を持って学校を訪問する出前授業を数多く行っていますが、今後は、館内での説明・体験学習がおこなえるよう、館内・館外などに、児童が体験学習のできる広場を確保します。

◎現在の展示室について

元々教室であった場所を展示室に改造利用しているため、天井の高さなど構造的な限界があり、展示専用スペースとして不十分である。

常設展示室現状（展示室 1）

ロビー展「ひなまつり」の様子

（４）普及活動

来館者がさらに知識を深められるよう、関連図書の閲覧や調べものができる機能の充実と、幅広い成果の還元を目指します。

・ 亀岡に関する古文書や行政資料、図書資料の整理を進め、地域の情報拠点と位置付けます。市民への生涯学習機会の提供として、また、観光客への地域案内として、収集整理した図書や行政資料などは、図書コーナーに配架し、利用者が利用しやすいように提供します。

・ 資料館だけの活動ではなく、市民団体（友の会、NPO、各顕彰会）など諸団体との連携によりさまざまな体験活動の場を持つことで、活動の幅や規模を広げることができます。これらの活動は、参加者同士をつなぐ場となり、さらに大勢の人たちへの成果の還元となります。

◎現在のロビー･研修室について

元校長室や教室をロビーや研修室に転用しているため、スペース的に不十分である。

ロビーでの図書資料の配架の様子

研修室での講演会の様子

６　新資料館の整備の考え方

（１）立地条件

立地に関する基本的な考え方

・利便性（来館に便利）があること。

・安全性（災害に強い）が高いこと。

（２）設置形態

建物に関する基本的な考え方

・文化財保護法や博物館法にもとづく文化財公開施設として必要な機能を備えること。

・まちと調和した亀岡らしい建物であること。

・建物としての維持管理が容易であること。

敷地に関する基本的な考え方

・大型バスも駐車可能な駐車場が確保できること。

・小学生の体験学習などに利用できる広場が確保できること。

・野外展示エリア（石棺・石燈籠・道標などの展示）が確保できること。

⇒そのためには、現時点では、単独館での新築が、一番適していると考えられます。たとえ、複合施設として、他の文化施設や商業施設との同一の建物とした場合でも、公開承認施設としては、文化財公開施設としての専用の設備や区画が求められます。

＜参考資料＞

特に、立地環境については、「文化財公開施設の計画に関する指針」（文化庁、平成 7 年）に次のように規定されています。

◎文化財公開施設の立地条件

文化財公開施設は、建設予定地の立地環境によっては、必ずしも文化財の良好な保存に必要な条件を確保することができないおそれがあるので、その選定に際しては、以下の環境条件に対して十分に留意することが望まれる。

ア、地形（具体例……急傾斜地、低湿地等）

イ、地質・地層（具体例……地下水脈、水位、活断層等）

ウ、気象（具体例……多湿、塩害等）

エ、その他周辺の環境（具体例……大気汚染、降灰、住宅過密地域等）

(3) 施設構成

新資料館に必要な施設構成について、大きく 3 つに分けて考えます。

①博物館機能の核となる専門的なスペース。

②利用者と職員が共有できる共学のスペース。

③誰でも利用できる交流のスペース。

⇒文化財公開施設として専門的に対処すべき機能と、生涯学習を実践する学びの場としての機能と、いつでもだれでも気軽に利用できる機能を、うまく融合させて、多くの人々に親しんでもらえる新資料館を目指します。

⇒現時点での具体的な施設構成案については、以下のとおり。特に収蔵については、保存環境に適した場所で収蔵できていない資料も多くあり、また、気軽にくつろげるスペースも確保できていない現状の改善が必要です。

①博物館機能の核となる専門的なスペース

名称（必要面積）	必要な機能	現状（面積）
収蔵庫 （1,300 ㎡）	現在の収蔵庫は、開館後 30 年を経て満杯状態であるが、現在所蔵している資料に加えて、今後の寄贈受け入れも多く見込まれるため、新資料館に設置する収蔵庫は、十分な広さを確保する必要がある。 また、分野別に収蔵庫を分ける中で、特に、植物標本や魚の標本などは、他と別に収蔵する必要がある。	収蔵庫が満杯のため、資料室や荷解室にも資料を置かざるを得ない状況にある。 標本類は、館内に分散して収蔵。植物標本約 6,000 点。魚の標本約 100 点。
保管室 （200 ㎡）	マイクロフィルム・写真フィルムなどは、酸化を防ぐためにできるだけ低い温度で保存する必要がある。	館内に分散して収蔵。マイクロフィルム 2100 本。教育映画フィルム 155 点。写真フィルム約 200 ファイル分。
前室（収蔵庫・保管室）	収蔵庫や保管室に入れる前に仮置きできる部屋。収蔵庫等に外部から害虫などを持ち込まないという点で重要なスペースである。	なし
展示室 （750 ㎡）	常設展示室と企画展示室ともに、固定的でなく、亀岡の歴史文化を伝えるためのテーマ展示や、新出資料等を臨機応変に展示できる空間をめざす。	展示室 1（161.28 ㎡）、展示室 2（120.96 ㎡）
展示準備室	展示資料の仮置きや、展示中の資料の収納箱などを置くことができる。	なし
資料整理室	膨大な資料を効率的に整理するためのスペース。古文書や絵図などの調査には、和室が適している。	なし。必要に応じて研修室を利用。
写真撮影室	資料写真の撮影のための部屋。資料の整理や保存のために必要。	なし

トラックヤード・荷解室	資料の搬入の際に使うスペース。4 トントラックが入ることができるサイズが必要。	荷解室（23.15 ㎡）に資料を置いている。
学芸員室	学芸員が、調査研究のための資料整理などをおこなう。	現状の研究室は、図書資料でほぼ満杯状態。

②利用者と職員が共有できる共学のスペース

名称	必要な機能	現状（面積）
図書室・資料閲覧コーナー	図書資料等の配架・閲覧のための場所。利用者も職員も共有する。	1 階研究室と 3 階資料室に配置（閉架）。利用者が自由に利用できるのは、ロビーの一角に配架したもののみ。
レファレンスカウンター	探し物、調べ物の相談などに対応するスペース。パソコン検索機能も使えるようにしたい。	なし。質問にはロビーで対応している。
活動部屋	機織り機を設置し、友の会活動に利用できるともに、一般利用者も体験できる場所とする。	なし。必要に応じて研修室を利用。
会議室・講義室	講演会の会場や会議室として利用。	研修室（90.72 ㎡）。

③誰でも利用できる交流のスペース

名称	必要な機能	現状（面積）
エントランス	交流スペース。いつでも誰でも利用できるとともに、広い空間をとることで、利用者がリラックスして滞在でき、団体（大人も子どもも）の集合場所としても利用できるようにする。	ロビー（65.12 ㎡）のみ。様々な用途に利用している。
キッズコーナー	いつでも体験できるコーナー（パズル・ぬり絵・土器片をさわる・絵本を読む・昔の道具をさわる・・・など）等、誰もが楽しめるコーナー。	ロビーの一角に、状況に応じて少しだけ設置。
映像コーナー	亀岡の文化財、ふるさと亀岡の歴史、観光案内などを、映像で紹介するコーナー。	常設できていない
休憩室	展示室などは飲食禁止となるので、お茶やコーヒーなど一服できるスペース。	なし
トイレ・授乳室	明るく清潔で使いやすいもの。トイレ面積の男女比にも留意が必要。オムツ替えシートやオストメイトも必要。	男女別の仕切りが不十分。身障者用トイレには、オムツ替えシートとオストメイト有。
屋外展示・体験学習スペース	学校からの来館の際に、集合場所などとして利用。また、昔の暮らしの学習の際など、火おこしや、七輪での炭火体験などもできるスペース。	なし

7　新資料館の管理運営の考え方

(1) 組織について

館　長＝文化についての高い見識と専門性を持ち、総合的に博物館経営のマネジメントのできる人材の確保が必要です。

学芸員＝収集保存・展示普及・調査研究活動など担当し、各分野（考古・歴史・民俗・美術工芸等）の専門性をもつ学芸員の配置が必要です。

事務職員＝現在、学芸員が担当している庶務事項などについては、事務職員を配置し、分担を明確にすることで、さらに事務の効率化を図ることができます。

体　制＝職員体制において、日曜・祝日勤務体制における防犯・防災上での対応に必要な最低限度人数、博物館機能の運営のために必要な人数の確保が必要です。

資料館協議会＝博物館法に準じる資料館協議会を設置することも必要。協議会からの広い視点から、各種事業の企画運営面で柔軟な発想・運営が可能となります。

友の会＝現在は、資料館活動に積極的に参加する形で、日々の運営がおこなわれていますが、今後は、さらに、ボランティアとして参加活動も可能であると考えられます。

(2) 運営形態・評価システム

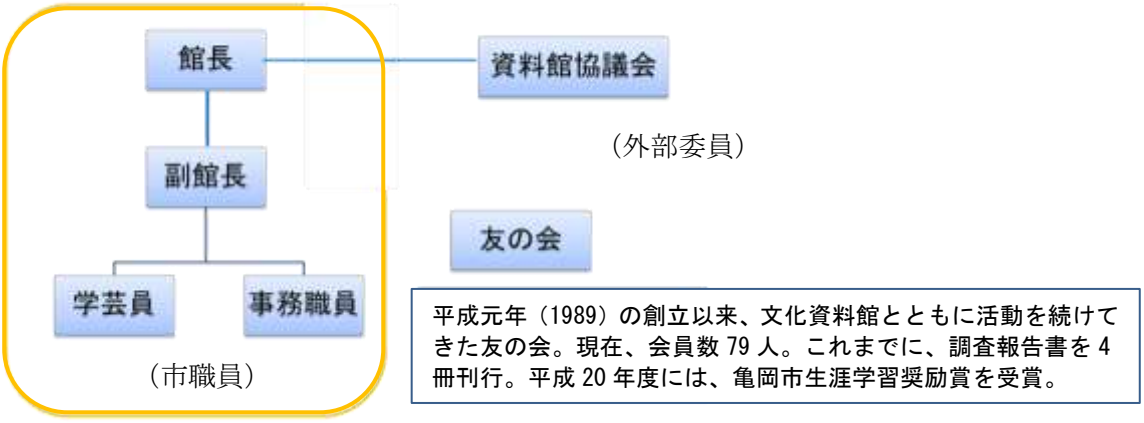
①運営形態

直営や指定管理者による運営などの比較検討については、さらに議論を深める必要があるため、今回は結論を出すことができません。今後の亀岡市の財政状況の推移を注視する中で、市内地域で活動するＮＰＯ諸団体との連携、他博物館・学校教育・研究機関などとの共同研究を積極的にすすめる資料館として、継続的な維持管理にどのような運営形態が望ましいのかを検討することが今後の大きな課題といえます。

②評価システム

自己評価だけでなく、資料館協議会などによる外部評価の実施にも考慮が必要です。

※組織イメージ図



８　新資料館実現に向けての進め方

（１）次年度以降の計画

今年度、第 4 次亀岡市総合計画の前期計画の最終年に、この構想を策定しています。ふるさと亀岡の未来を拓くために、新資料館は必要で重要な機能です。

亀岡市が掲げる第 4 次亀岡市総合計画（後期計画）には、5 年後の平成 32 年までの目標値として「新資料館構想に基づく基本計画の策定」を掲げます。今後は、亀岡市公共施設総合管理計画などとの整合にも留意しながら、新資料館の実現をめざして具体化をすすめることが必要です。

文化資料館を取り巻く現状を考えると、一刻も早く、さらに具体的に新資料館像を描き、新資料館のすみやかな実現を目指すことが重要です。

（２）開館までに必要な取り組み

実現にむけて、今後必要な取り組みとして、以下の事業を進めます。

①現有資料の保全（収蔵場所の確保と環境改善）

新しい資料館ができるまでの間も、所蔵資料の保全は、貴重な文化財を確実に将来に伝えるために、最大限考慮するべき課題です。新資料館の機能とは別に、現状としての収蔵スペースの確保及び保存環境の改善および、資料収集方針の確立については、具体的な計画を立てて進めていくべき、重要課題です。

②展示事業や調査研究・普及活動の継続

資料の調査収集や展示事業、普及啓発事業など現在展開中の諸事業は、新資料館の開館を待って中断するような性質のものではありません。今後も、積極的に継続していく必要があります。

③広報活動の充実・拡大

多くの皆さんに資料館活動に参加してもらうために、また、亀岡に興味関心を持つ観光客への情報提供としても、広報活動は重要です。特に、ホームページに関しては、現在、亀岡市ホームページの中に、文化資料館のページがありますが、さらにわかりやすい情報発信を目指す必要があり、具体的に検討を進めます。

④専門性をもった職員の配置

利用者と資料をつなぐ懸け橋となる専門知識をもつ学芸員と、事務担当職員の両方を新たに配置することで、資料館運営の効率化を図ります。

⑤資料館協議会の設置

これらの取り組みをサポートし、新資料館の実現を積極的に進めるために、平成 28 年度から資料館協議会を設置し、幅広い視点から、資料館事業を推進します。

結びにかえて

亀岡市文化資料館は、昭和 60 年(1985)11 月の開館以来、亀岡の歴史・文化・自然遺産を「ふるさとの“たからもの”」として数多く調査・収集し、その研究成果を展示・普及活動の中で、わかりやすく市民のみなさんに紹介し、ふるさとの歴史や文化などについて学べる「生涯学習実践施設」として、約 30 年間にわたりその役割を果たしてきました。

今回、施設的に改造本館(旧亀岡市立女子技芸専門学校校舎を改造・建築から 40 年以上経過)の老朽化が進む中で、これからの文化資料館が「新しい資料館」としてどうあるべきか、その役割・機能・整備・管理運営などについての基本的な考え方とその実現にむけた提言を取りまとめました。

この「亀岡市新資料館構想」を基礎として、新資料館が、「ふるさとの“たからもの”」の収集保存・調査研究・展示普及活動を正しく担うことが、亀岡が魅力あるまちとして輝くために必要であると確信しています。

＜参考資料＞

1　第 4 次亀岡市総合計画（抜粋）

2　亀岡市教育振興基本計画（抜粋）

3　亀岡市民憲章

4　亀岡市文化資料館友の会の概要

5　『提言書～新資料館構想の策定に向けて～』亀岡市文化資料館友の会（抜粋）

6　亀岡市第 4 次総合計画～夢ビジョン～シンボルプロジェクトについて

7　アンケート結果の分析について

8　亀岡市新資料館構想策定委員会設置までの取り組み（亀岡市文化資料館）

9　亀岡市文化資料館におけるこれまでの展示会一覧

10　亀岡市文化資料館における調査研究・普及活動等への対応件数の推移

11　亀岡市文化資料館におけるこれまでの連続文化財講座一覧

12　亀岡市文化資料館の最近の利用者数の推移

13　亀岡市新資料館構想策定委員会における先進地視察内容

14　亀岡市新資料館構想策定委員会開催スケジュール

15　亀岡市新資料館構想策定委員会委員名簿

16　亀岡市新資料館構想に向けて

＜参考資料 1＞

第 4 次亀岡市総合計画　　亀岡市（前期計画：平成 23 年～平成 27 年）

第 4 章　豊かな心と文化を育むまちづくり
第 4 節　文化芸術・歴史文化

現状と取り組むべき課題

●地域資源を活かした亀岡市のまちづくり、人づくり、未来づくりの拠点として、文化資料館の施設・活動の充実を検討していく必要があります。

解決策

文化芸術活動の気運の高い、文化の香るまちづくりを進めます。
また、亀岡の持つ歴史や文化、自然の特性を活かした個性あるまちづくり、人づくりを市民の参画と協働により推進し、「ふるさと力」を高めます。このため、既存施設の改修や新たな資料館施設の建設など、施設の充実を図るとともに、人材の拡充や企画・イベントの充実を図ります。

1　文化芸術活動の促進
2　伝統文化の保存と活用
3　歴史を学ぶ拠点の整備

具体的施策

2　伝統文化の保存と活用

●文化資料館活動の推進（協働）

資料館活動の充実のため、考古・民俗・歴史・自然といった分野にこだわらない新たな展示方法の研究や所蔵資料のデータベース化を推進します。

また、明智光秀など縁の人物や、アユモドキに代表される自然環境など、亀岡地域の歴史文化にかかわる郷土資料の収集を図ります。

3　歴史を学ぶ拠点の整備（協働）

●新資料館構想の策定

新資料館の建設に向け、建設場所や規模、機能などについて、市民と行政が一体となって資料館の将来構想を策定します。

＜参考資料 2＞

亀岡市教育振興基本計画　　亀岡市教育委員会（平成 25 年～平成 32 年）

目標 6　歴史・文化・自然の保存継承と発信
施策の方向性　1　文化財の保存と活用
　　2　歴史・文化・自然を学ぶ拠点の整備

②歴史・文化・自然を学ぶ拠点の整備
　ふるさとの歴史･文化･自然を紹介し､学ぶ場として文化資料館の展示会や講座の充実を図ります。そして、施設の老朽化が進む中で、新たな資料館の理念・機能・規模などについて検討します。
　また、地域資源を活かした、まちづくり、人づくり、未来づくりの拠点として、新資料館の建設に向けた取組を推進します。
《重点施策》
　〇新資料館構想の策定と拠点整備
　〇市民ニーズに応える調査研究・展示普及の充実
　〇郷土資料の収集保管の充実

＜参考資料 3＞

亀岡市民憲章　　（平成 17 年 11 月告示）

　京都から西へ、老ノ坂を越えれば朝霧の晴れ間に亀岡盆地が広がる。豊潤な水脈は、田園や里山に多彩な実りをもたらし、舟運を支えてきた保津川は、いまも渓流の舟下りで賑わっている。
　古来、人びとは自然との調和やお互いの絆、家族のぬくもりを大切にしながら暮らしてきた。
　そこには石門心学が生まれ、円山応挙の芸術が育まれた。城下町のたたずまいを色濃くとどめ、華麗な山鉾が巡り、地域に根ざした芸能が息づいている。
　そんな亀岡に生きるわたくしたち市民は、こうした平安の営みを未来につなぐことを願って、市民憲章を掲げます。

一　水と緑の恵みを大切にし、豊かな環境を次代に引き継ぐまちをつくります
一　いのちを尊重し、共に輝き、心の通いあう家族とまちをつくります
一　健やかな心とからだを育て、安らぎのあるまちをつくります
一　互いにまなび、高めた力を活かす生涯学習のまちをつくります
一　歴史と伝統を生かし、先人の知恵が香る文化のまちをつくります
一　世界にはばたく、豊かな感性と英知を育むまちをつくります
一　一人ひとりが主役となって、共に生き、ともに支え、平和と人権の根づくまちをつくります

＜参考資料 4＞

亀岡市文化資料館友の会の概要　亀岡市文化資料館友の会（平成 26 年 5 月）

- 設立：平成元年度(1989)
- 会員数：83 名　（平成 25 年度）
- 初期の活動：調査研究活動と調査報告書の発刊。
  - 平成 5 年度　『愛宕灯籠』
  - 平成 7 年度　『亀岡の水車』
  - 平成 10 年度　『昔の子どもの遊び』
  - 平成 13 年度　『消えたふるさとの音の風景』
- 平成 10 年度　亀岡の歴史・文化の調査研究に対して、亀岡市長より感謝状を受ける。
- 平成 10 年度　「新修亀岡市史編纂記念シンポジウム」に参加。
- 平成 10 年度、13～15 年度　「子どもフェスティバル」に参加、昔の子ども遊び担当。
- 平成 13～15 年度　「親子ふれあいサイエンス・フェスタ」に参加、昔の子ども遊び担当。
- 平成 14、15 年度　「文化庁文化体験プログラム事業」に参加。
- 平成 16 年度　「亀岡市子供歴史学校」に参加。
- 平成 17～19 年度　「丹波学トーク『新修亀岡市史を読む』」に参加。
- 平成 20 年度　亀岡市生涯学習奨励賞受賞。
- 平成 23 年度　国民文化祭にカイコ・綿サークルが参加。国分寺で「繭から糸へ」の企画展示を行なう。
- 現在、「城下町探訪」「古文書」「カイコ・綿」「回想法」の 4 つのサークルと「新修亀岡市史を読む会」があり活動している。
- ほかに春秋 2 回の文化財研修や文化財講座を開催。
- 「友の会会報」の発行、年 2 回。

亀岡市文化資料館友の会による提言書作成の経過

平成 25 年 7 月 10 日　第 1 回提言書実行委員会開催（アンケートの内容を検討）
8 月 7 日　第 2 回提言書実行委員会開催（アンケートの内容決定）
9 月 11 日　第 3 回提言書実行委員会開催（アンケートの実施　9 月 30 日〆切）
10 月 9 日　第 4 回提言書実行委員会開催（アンケート集計　回収率 71.3%）
11 月 13 日　第 5 回提言書実行委員会開催（第 1 回フォーラムの内容について検討）
11 月 27 日　第 1 回友の会新資料館を考えるフォーラム開催（16 名出席）
12 月 11 日　第 6 回提言書実行委員会開催（第 1 回フォーラムのまとめ）
平成 26 年 1 月 8 日　第 7 回提言書実行委員会開催（第 2 回フォーラムのテーマについて検討）
2 月 12 日　第 8 回提言書実行委員会開催（第 2 回フォーラムのテーマについて検討）
2 月 15 日　第 2 回友の会新資料館を考えるフォーラム開催（13 名出席）
3 月 12 日　第 9 回提言書実行委員会開催（第 2 回フォーラムのまとめ）
3 月 21 日　第 10 回提言書実行委員会開催（提言書案の検討）
3 月 29 日　友の会文化座談会開催（提言書案を検討）
4 月 9 日　第 11 回提言書実行委員会開催（提言書案の最終確認）
5 月 24 日　友の会総会にて提言書を報告

＜参考資料 5＞

『提言書～新資料館構想の策定に向けて～』亀岡市文化資料館友の会（平成 26 年 5 月）

---

3. 新資料館構想策定に向けての提言

3-1 提言項目

～目指すべき資料館～

- 集い学べる資料館
- 夢と誇りを育てる資料館

(1) 亀岡の歴史が分かるところ

(2) 亀岡の民俗を伝えるところ

(3) 亀岡ゆかりの偉人について知るところ

(4) 亀岡の宝物を守り伝えるところ

(5) あらゆる市民が利用できるところ

(6) 重要文化財を展示できる施設

(7) 市民協働の資料館

(8) 広報は資料館の命

(9) 新資料館に希望する施設について

(10) 新資料館の設置場所について

3-2 提言項目の説明

(1) 亀岡の歴史が分かるところ

亀岡は古代から交通の要衝であり、保津川の水運を使って、千年の都をささえ、政治の中心に関わって来た歴史を持っています。亀岡の歴史は市民の誇りを育てます。亀岡の歴史が見渡せる場所として、新資料館は重要なところです。

(2) 亀岡の民俗を伝えるところ

亀岡は1300年の歴史を持つ神社や祭事、民間の伝承など、民俗学に関することの宝庫でもあります。伝統や民俗を学べる拠点としての新資料館を望みます。

(3) 亀岡ゆかりの偉人について知るところ

亀岡には、明智光秀、石田梅岩、円山応挙、中川小十郎、出口王仁三郎など亀岡ゆかりの偉人がたくさんいます。歴史上の人物がどのように亀岡と関わり、どのような偉業を成し遂げたのかということを学ぶことも意義あることです。特に日本美術史の上で偉大で日本中の誰もが知っている円山応挙については梅岩同様の取り組みがあってもよいのではとの意見も多数出ています。

(4) 亀岡の宝物を守り伝えるところ

歴史・文化の資料を後世に伝えていくのは私達の使命です。まだ眠っている資料を発掘・発見するのも大事なことです。またアンケートの結果では亀岡の魅力は自然環境と答えている人が一番多く、歴史・文化だけでなく自然環境を守っていくことも新資料館の大きな仕事です。

新資料館が扱う各分野には専門の学芸員が必須です。専門課程を修めた学芸員は、資料館の柱です。資料を集め、研究し、市民に還元するのは学芸員です。市民は学芸員との関わりによって自己学習力を高め、それをまた社会に還元します。新資料館の原動力になる学芸員という仕事を大切に考えて下さい。

(5) あらゆる市民が利用できるところ

子どもの時から資料館に親しんだ人々は、亀岡を支える力になります。あらゆる市民が、亀岡の全てについて学ぶきっかけを得る場として、また亀岡を更に深く知ることができる場としてプログラムの工夫が必要です。

触って観察できるコーナーがある博物館もあり、目が見える人にとっても、質感や重さなど、触れて初めて分かることもあります。その他いろいろな企画によるきっかけ作りを望みます。

(6)　重要文化財を展示できる施設

アンケートの中で最も要望が多かったことは、重要文化財を見ることができる新資料館です。写真の技術が発達した現代でも、本物の持つ迫力が感動を呼び起こすのです。

(7)　市民協働の資料館

アンケート回答者の60%の方が、展示解説、資料整理、市民学芸員などの形で新資料館にボランティアとして参加できると答えています。現在すでに資料館の出前授業に参加し、友の会会員が小学校へ出かけています。これからの新資料館は住民参加型資料館であるべきです。専門の学芸員の指導を受け技術を持ったボランティアの育成も必要です。

(8)　広報は資料館の命

新資料館が市民の学びの場として発展するには広報が欠かせません。これからの広報はインターネットが主流になります。魅力あるホームページの作成と更新が必要です。また資料館に来れば、パソコン端末で資料館の所蔵品が検索できたり、日本中・世界中の美術館・博物館とも繋がるようなシステムも必要になります。

(9)　新資料館に希望する施設について

図書の閲覧コーナーは60%の人が希望し、そのほか、映像ホール、天体観測ルームや開放的なロビー、休憩施設など、市民の憩える場所としての機能も併せ持つところとの希望が多く回答されました。

資料館友の会は現在、「城下町探訪」「古文書」「カイコ・綿」「回想法」の4つのサークルと「新修亀岡市史を読む会」が毎月活動しています。友の会の自主的な活動のための、サークル室や道具類の保管場所などが必要です。ボランティアのための部屋もぜひ設置して下さい。全館がバリア・フリーであることは当然のことです。

(10)　新資料館の設置場所について

交通の便なども考えた市民の行きやすい場所であること、広さと安全性にも考慮した駐車場、図書館などの文化施設との併設などの意見が多く出されました。アンケートの自由記述欄には、駅周辺か交通の便がよい行きやすいところという意見が多数ありますが、現在地という意見も含めて、その後の洪水の様子などから、資料の収蔵場所として十分な考慮が必要なのではないかとの意見もあります。

＜参考資料 6＞

亀岡市第 4 次総合計画～夢ビジョン～シンボルプロジェクトについて

亀岡市夢ビジョン推進課（平成 23 年～27 年）

■シンボルプロジェクト■

「第 4 次亀岡市総合計画～夢ビジョン～」において実施するシンボルプロジェクトは、3 つのプロジェクトごとにプロジェクトチームを発足させ、白紙の段階から、「市民・団体・事業者・行政」の協働により議論・企画・提案し、新しいまちづくりに向けて、従来とは異なる意思決定の仕組みの構築など新たな挑戦として取り組んでいくものです

＊市民・行政みんなで「夢」「希望」を実現する、まちぐるみの新しい挑戦

＊「水・緑・文化」「笑顔と共生」「にぎわい」をテーマとして、次の 3 つのプロジェクトに取り組んでいます。

◎「自然・文化 次代継承」プロジェクト

人と生きものが共生するやさしい環境をもたらす、保津川をはじめとする清流や緑豊かな山々、魅力的なまちなみ、そして京の都に接する立地環境に育まれた個性ある悠久の歴史文化は、市民共有の財産です。私たちは、この貴重な財産を次代のこどもたちのために守り、育てていきます

市文化資料館を亀岡の自然・環境・文化・歴史などを次代に継承していくためのシンボル施設と位置付け、同館を核に各事業を展開しています。

・「亀岡市文化資料館みんなで応援サイト（HP、Facebook ページ）」の運営による亀岡の自然・文化・祭り等に関する情報の受発信や、「亀岡地域研究員」による亀岡の魅力などを随時投稿。

・亀岡の祭りを次世代に継承するため、応援サイトの「亀岡のお祭り歳時記」コーナーを設置し、祭りレポートを掲載。今後、電子版「（仮称）亀岡祭り本」の製作予定。

・「新資料館構想」の策定に向け、市民 2,000 人を対象としたアンケート調査を実施、「新資料館討論フォーラム」を開催。 **＜アンケート結果による分析は、参考資料 7 に掲載＞**

・ネイチャーガイド育成に向けた「亀岡の山城を訪ねて」を実施。

・エネルギー問題検討・保津川小水力発電プロジェクト。

◎「住み心地向上」プロジェクト

子どもが元気に育つまちは、みんなが元気で幸せに暮らせるまちです。私たちは、子どもや子育て世帯が暮らしやすく、また、子どもから高齢者まで誰もが生涯を笑顔で過ごせる定住都市の理想を実現していくため、ぬくもりを感じられる住み良さをまちぐるみで創造していきます。

子育て世帯が暮らしやすい、地域ぐるみの子育ち環境づくりに向けた、「小学校 4～6 年生の子どもたちの放課後の居場所」づくり を目指して、チームが描く子どもたちの理想の居場所づくりを検討しています。

◎「にぎわい創出」プロジェクト

まちの経済や産業は、活気のある、自立したまちをつくっていくための根幹です。私たちは、かわ・まちの魅力と市民の力を活かし、地域の産業がたくましく育ち、新しい企業・起業家や市民・来訪者が集う、にぎわいと活力に満ちた取組を推進していきます。

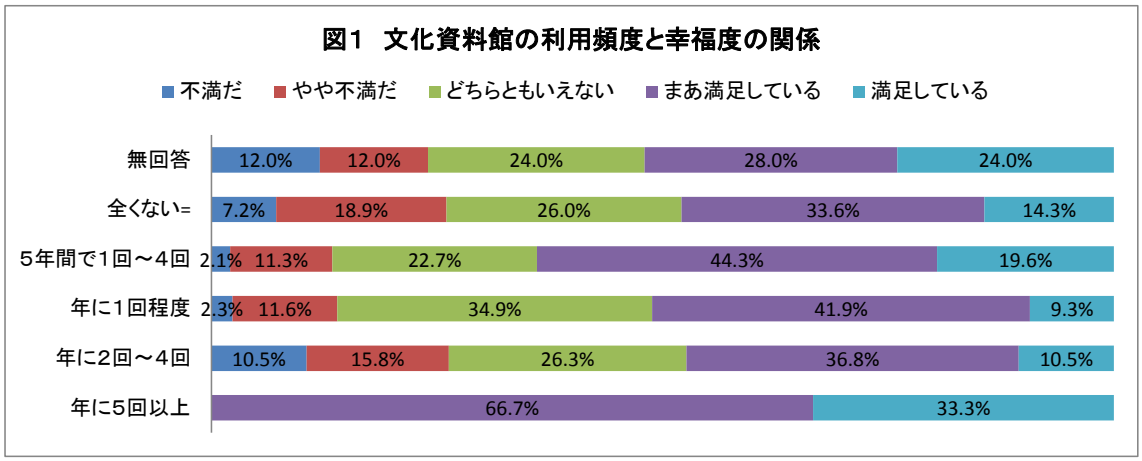
亀岡市に「コミュニティラジオの開局」を目指し、GBS 京都学園大学放送部の協力により番組を制作、放送をしています。城下町観光マップの製作、新たな観光ルートの調査。

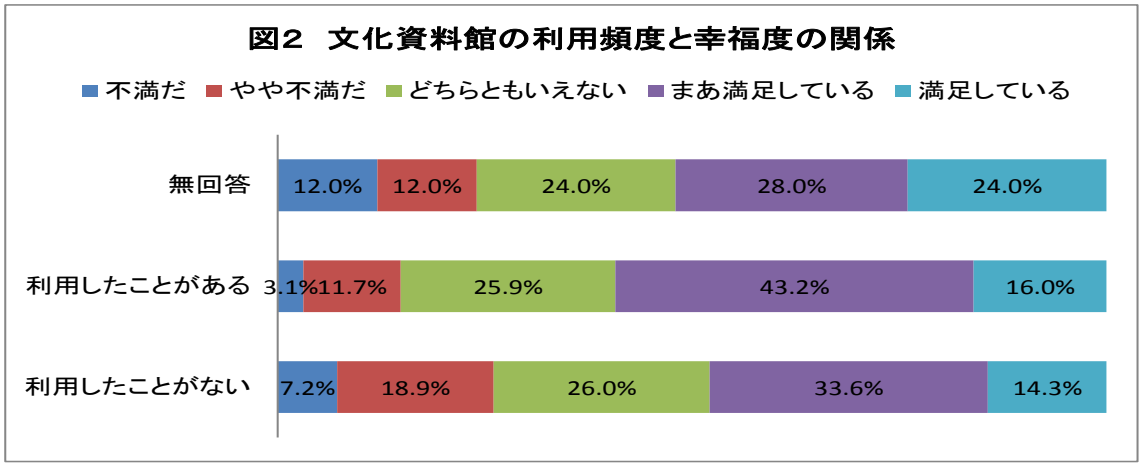
＜参考資料 7＞
アンケート結果の分析について

「文化資料館の利用頻度が多くなると幸福度が高くなる関係」

「新資料館構想の策定に向けたアンケート調査」が「シンブルプロジェクト」の中で 2013 年 10 月に行われている。アンケート票の回収数　789 のうち、有効票数は 783 である。男性が約 40%である。年齢構成は、60 代と 70 代がやや高いがおよそ亀岡市の年齢構成と同じである。

最近 5 年間での亀岡市文化資料館の利用状況と幸福度（生活の満足度）の関係が図 1 で描かれている。利用が全くない回答者の中で満足(「まあ満足している」と「満足している」を合計)の割合は 47.9%である。年 2 回～4 回の利用者の満足の割合は 47.3%とわずかに低い。しかし、これ以外の利用者の幸福との割合は、「全くない」の割合を超えている。特に、年に 5 回以上の場合は、満足の割合は 100%である。図 2 では利用したことがない場合と利用したことがある場合の幸福度の状況が示されている。これから利用したことがある回答者は幸福度が高いことが分かる。このように、一般的に利用頻度が高くなると幸福度は高いと言える。しかし、この関係は所得などの社会経済変数の影響を反映しており表面的なものかもしれない。したがって、社会経済変数をコントロール変数として分析しなければならない。社会経済変数をコントロール変数として順序ロジットを分析した場合、統計的に利用頻度と幸福度の間に正の関係があることが確認される。





（分析：伊多波良雄同志社大学経済学部教授）

＜参考資料 8＞

亀岡市新資料館構想策定委員会設置までの取り組み（亀岡市文化資料館）

平成 23 年 1 月に第 4 次亀岡市総合計画で「新資料館構想の策定」を明記されたことを直接の契機として、構想策定委員会設置までに、毎年、広く市民と共に、資料館について考える機会を持ちました。

平成 22 年度

「資料館の将来を考えるためのランニングシンポジウム」全 3 回

資料館職員がファシリテーターとなり、参加者がグループに分かれて、思いを話し合いました。

1 月 15 日「人づくりのために―資料館で何ができるのか―」　（出席者 21 人）

2 月 19 日「まちづくりのために―資料館ではこんなこともしています―」　（出席者 18 人）

3 月 12 日「未来づくりのために―資料館の得意分野―」　（出席者 20 人）

①人づくりは場所づくり、信頼できる場所づくりという視点
②亀岡だけにとどまらない「京都丹波」という広い視野
③資料の収集・保存・公開などの資料館機能の強化
④資料と利用者とをつなぐ、専門性を有する学芸員の配置

平成 23 年度

「夢資料館フォーラム」全 2 回

講師の話を聞いてから、グループごとに分かれて、参加者同士で机を囲んで話し合いました。

第 1 回「参加型資料館とは」6 月 4 日開催　（出席者 30 人）

＜講演＞「丹波竜の発見とまちづくり」村上茂さん（上久下地域づくりセンター長）
「博物館とボランティアの協働について」高橋晃さん（兵庫県立人と自然の博物館）

①市民との協働を通じ、市民とともに協学する参加型資料館
②本来あるべきボランティアの姿＝対等関係から成立する「セミナールーム」
③参加型資料館をめざす資料館＝参加のための市民からの指摘
むずかしい、わかりにくい、かたい、くらい、せまい、くさい

第 2 回「多分野型資料館とは」7 月 10 日開催　（出席者 16 人）

＜講演＞「さまざまな資料を活かす―過去・現在・未来をむすぶために―」
井口和起さん（京都府立総合資料館顧問）

＜対談＞　井口和起×黒川孝宏

①地域コミュニティー機能（情報を中心につながりえ合える場）
②みんなが集まれる場所（行きやすい場所、目立つ外観）
③無関心へのアプローチ・関心のある人へのアプローチ（新たな利用者の創出）
④資料館とのゆるやかなネットワーク

平成 24 年度

連続文化財講座「みんなでつくろう私の資料館」（全 4 回）

連続講座として、様々な立場からの具体的な実践例を詳しくお聞きしました。

	内　　容	講　　師	人数
第 1 回 8 月 5 日（日）	「探そう、活かそう、わが町の宝物　～資料館活動の楽しみ方～　」 Ａ級資料だけでなく、Ｂ級資料も町の宝物。資料館に来れば必ず何かがある、わかるという信用が大事。	渡部幹雄さん （和歌山大学付属図書館長・特任教授）	31 人
第 2 回 9 月 8 日（土）	「共汗でつくる『新京都市動物園構想』－近くて楽しい動物園づくりをめざして－」 市民協働という視点で、構想を進める必要性。リニューアルの視点の重要性。	秋久成人さん （京都市動物園副園長）	14 人
第 3 回 12 月 23 日（日）	「利用者と共に歩む博物館～これからの博物館に求められるもの～」 新資料館開館にむけて、実際の流れとそれぞれの場所での工夫について。	布谷知夫さん （三重県立博物館長）	22 人
第 4 回 3 月 24 日（日）	「世界をさわる～だれもが楽しめる博物館、資料館をめざして～」 博物館資料をさわることは、視覚障害者だけでなく、健常者にとっても重要な情報源。	広瀬浩二郎さん （国立民族学博物館調査研究部准教授）	27 人

※第 4 次総合計画におけるシンボルプロジェクトのグループと連携して開催。

平成 25 年度

連続文化財講座「子どもと楽しむ資料館」（全 2 回）

資料館に必要な様々な要素のうち、子どもたちにも楽しんでもらえる資料館づくりのために、子どもを対象としたワークショップを、全 2 回の連続講座として開催しました。

	内　　容	講　　師	人数
第 1 回 11 月 23 日（土・祝）	「さわって楽しむ資料館 vol.1　1000 年前の土器にタッチ！」 ブラックボックスの中の資料を手探りで想像し、伝える体験。本物をさわる体験。	石川梨絵さん （キッズプラザ大阪 ミュージアムエデュケーター）	16 人
第 2 回 3 月 21 日（金・祝）	「ふでばこてんらん会」 「ふでばこ」という子どもたちに、とても身近な道具を使い、それぞれのモノの来歴を記録する「調査」や、それをどのように伝えるかという「展示」の手法を実感。	佐藤優香さん （東京大学大学院情報学環特任助教）	8 人

平成 26 年度・平成 27 年度

亀岡市新資料館構想策定委員会を設置し、具体的に検討を進める

平成 27 年度

連続講座「資料館の“資料”のはなし」（全 6 回）

資料館の仕事は「展示」。その他にも、イベントや講演会もやっているみたいだけど‥‥？展示以外の仕事って、何をやってるの？。資料をたくさん集めているの？。文化資料館の中身をより深く理解していただくために、皆さんの質問や疑問に答えます。

	内　　容	講　　師	人数
第 1 回 7 月 4 日（土）	「“資料”は“たからもの”」 博物館の資料について、収集・保存・活用のために、資料館の中身をわかりやすく解説。	永光 寛 （亀岡市新資料館構想策定委員会副委員長）	28 人
第 2 回 8 月 15 日（土）	「カケラも“たからもの”です」 発掘調査で増え続ける!?。考古資料の収集と保存について知るために、みんなで 1000 年前や 1500 年前の土器をさわってみよう。	土井孝則 （当館職員）	18 人
第 3 回 9 月 5 日（土）	「ふるさとの“たからもの”に込められた祈りと心」 亀岡にある数多くの文化財について、その魅力と伝えてきた人々の心を考えてみましょう。	樋口隆久 （当館職員）	30 人
第 4 回 10 月 18 日（日）	「民具を残そう ―身近な“たからもの”―」 毎日の暮らしの中で、使われてきた民具をこれからも伝える方法について、実際にさわって、考えてみましょう。	伊達仁美さん （京都造形芸術大学教授） 八木めぐみ（当館職員）	13 人
第 5 回 11 月 21 日（土）	「文化財レスキュー ―“たからもの”を救え―」 古くなったり、災害で被害を受けたりした文化財への対応や、文化財を守り育てるための努力を紹介。	上甲典子（当館職員） 齋藤 綾（社会教育課職員）	31 人
第 6 回 12 月 19 日（土）	「亀岡の“たからもの”を未来に伝えるために」 座談会形式で、新資料館について委員会で話し合ってきた内容ことを紹介。	大野照文 （新資料館構想策定委員会委員長） 永光 寛 （新資料館構想策定委員会副委員長） 黒川孝宏（当館館長）	25 人

＜参考資料 9＞

亀岡市文化資料館におけるこれまでの展示会一覧

凡例：網掛けした展示会では国指定重要文化財を展示。【内容の欄に、展示した重要文化財資料名を記載】

年度	展示会名	分野	内容／【　】内は、展示した重要文化財資料名
昭和60	開館記念常設展「亀岡の歴史とあゆみ」	歴史	亀岡の大昔から現代までと亀岡の祭りを紹介。／**【丹波国分寺　薬師如来坐像】**
	開館記念特別展「生誕 300 年記念　石田梅岩」	歴史	梅岩生誕 300 年を記念し、梅岩の人となりや功績を紹介。
61	第 1 回企画展「ふるさとのたからものー市指定文化財からー」	歴史	昭和 45 年～61 年に登録された市指定文化財の紹介。
	第 2 回企画展「石への祈りー中世の石造美術ー」	民俗	身近な石造物に刻まれている当時の人びとの願いを紹介。
	第 2 回特別展「丹波の城」	歴史	丹波地域一円の近世城郭について紹介。
62	京都府内巡回展「鏡と古墳ー景初四年鏡と芝ヶ原古墳ー」	考古	京都府下出土の鏡と古墳について、芝ケ原古墳を中心に紹介。
	第 3 回企画展「発掘調査から学ぶ」	考古	先人達の労働と生活の跡をとどめる遺跡を知る。
	第 4 回企画展「文学の旅ー名作の舞台を訪ねてー」	歴史	丹波亀岡をとりあげた文学作品から、関係の旧跡・社寺を紹介。
	第 3 回特別展「大堰川の歴史ー母なる川のうつりかわりー」	歴史	大堰川の水運・治水等の歴史について紹介。
63	寄贈寄託資料展「ふるさとウオッチングー寄贈・寄託資料を中心にー」	歴史	昭和 60 年～63 年までの寄贈・寄託資料の紹介。
	第 5 回企画展「遊び」	民俗	伝統的な遊びと時代・社会との結合について探る。
	第 6 回企画展「刀・剣ーまつりと信仰ー」	考古	刀や剣が“マツリ”の中でどのように扱われたかを紹介。
	第 4 回特別展「円山応挙」	歴史	亀岡出身の円山応挙の作品と生涯を紹介。／**【金剛寺群仙図】**
平成元	第 7 回企画展「米・豊かな実りを求めてー大昔の農具ー」	考古	発掘調査で出土した農具から米作りを紹介。
	第 8 回企画展「宝林寺ー信仰のこころとかたちー」	歴史	宝林寺の宝物から見た信仰のかたちを紹介。／**【宝林寺　釈迦如来坐像・薬師如来坐像・阿弥陀如来坐像】**
	第 5 回特別展「亀岡鉄道物語ー汽笛がひびいて 90 年ー」	歴史	日本の鉄道史を嵯峨野線の一端から紹介。
2	第 9 回企画展「武者行列ー甲冑の世界ー」	歴史	亀山藩ゆかりの甲冑を中心に紹介。
	第 10 回企画展「丹波の埴輪ー1500 年の時を越えてー」	考古	丹波地域出土の埴輪を中心に紹介
	第 6 回特別展「明智光秀と丹波・亀岡」	歴史	光秀の実像について丹波平定などとともに紹介。開館 5 周年記念。／**【京都府立総合資料館　織田信長禁制（東寺百合文書）】**
3	第 11 回企画展「尊氏と丹波の土豪」	歴史	足利尊氏と丹波の土豪との関係を紹介。
	第 7 回特別展「天平の巨大プロジェクト国分寺」	考古	丹波国分寺を中心に周辺の国分寺を紹介。
	第 12 回企画展「職人の民俗誌ー寒天づくり篇ー」	民俗	寒天職人からの聞き取りを中心に、製造技術の実態と変遷を紹介。
4	第 13 回企画展「丹波亀山城物語」	歴史	亀山城の築城・整備の歴史を紹介。
	第 14 回企画展「丹波ー中・近世の考古学ー」	考古	丹波の中・近世の遺跡、主に山城を中心に紹介。
	第 8 回特別展「民俗芸能ー人形浄瑠璃ー」	民俗	佐伯灯籠を中心に京都府下の人形浄瑠璃を紹介。
5	第 15 回企画展「稲の民俗学」	民俗	稲作儀礼から先祖が神に祈らざるを得なかったくらしを考える。
	第 16 回企画展「南丹波の王ー前方後円墳の世界ー」	考古	南丹波の古墳時代前・中期の古墳を紹介。
	第 9 回特別展「南北朝時代の丹波・亀岡」	歴史	足利尊氏を中心とした丹波での動向を紹介。／**【醍醐寺　醍醐寺文書】【神護寺　神護寺文書】【安国寺　安国寺文書・安国寺境内図】【京都府立総合資料館　東寺百合文書】【淡島神社　大円山形星兜・金銅鞘太刀拵】**

年度	展示会名	分野	内容／【　】内は、展示した重要文化財資料名
6	第 17 回企画展「丹波・亀山藩物語」	歴史	亀山藩の成立・発展などについて紹介。
	第 18 回企画展「盆に迎える霊－京都の盆行事と芸能－」	民俗	盆行事の習俗や室町時代に流行した風流踊りなどを紹介。
	第 10 回特別展「丹波国と平安京－都を支えた篠窯跡群－」	考古	篠窯跡群を中心に平安京の実像を丹波国の動向から探る。
7	第 19 回企画展「一絲文守と丹波・法常寺」	歴史	一絲文守と法常寺との関わりを中心に紹介。／**【法常寺後水尾天皇宸翰】**
	第 20 回企画展「亀岡　発掘40年」	考古	亀岡市制 40 周年を記念してその間に調査された遺跡を紹介。
	第 11 回特別展「四季の祭りと年中行事－亀岡歳時記－」	民俗	亀岡を中心に行われる四季の祭と年中行事を紹介。開館 10 周年記念。
8	第 21 回企画展「古代人の願い」	考古	丹波出土の祭祀遺物を中心に古代の“マツリ”考える。
	第 12 回特別展「近代丹波・亀岡のあけぼの」	歴史	明治維新前後の近代丹波・亀岡の様子を紹介。
	第 22 回企画展「昔の道具たち」	民俗	明治から昭和初期に使用された生活道具を中心に紹介。
9	第 13 回特別展「情報の発信・受信、それは道－京都縦貫自動車道の発掘調査－」	考古	京都縦貫自動車道建設の事前発掘調査の成果を紹介。
	第 23 回企画展「亀岡の宝物」	歴史	市指定文化財を中心に亀岡市内の宝物を紹介。
	第 24 回企画展「大堰川探検－歴史を知り、自然を感じる－」	民俗	大堰川水運の歴史から川に生きる生物を紹介。
10	第 25 回企画展「横穴式石室のはじまり－ロ丹波を中心に－」	考古	ロ丹波の導入期の横穴式石室を集成。
	第 26 回企画展「花嫁のいろどり」	民俗	伝統的な婚礼の歴史を衣装や道具で紹介。
	第 14 回特別展「昔の遊びの風景－子ども時代の記憶から－」	民俗	明治・大正・昭和にかけて昔の子どもの遊びを紹介。
11	第 27 回企画展「探求！丹波亀山城」	歴史	亀山城の五層天守を中心にして紹介。
	第 28 回企画展「原始・古代人のわすれもの」	考古	原始・古代人の衣食住について紹介。
	第 15 回特別展「火を使う人々－くらしの中の火を探る－」	民俗	火が人々の暮らしの中に浸透してきた様子を中心に紹介。
12	第 29 回企画展「亀岡人物ものがたり－ふるさとゆかりの偉人をたずねて－」	歴史	歴史的偉業を成し遂げた亀岡ゆかりの偉人の足跡。
	第 30 回企画展「農具たちの同窓会」	民俗	機械化されるまでの農具と豊作を祈願した人々の思いを紹介。
	第 16 回特別展「亀岡の 20 世紀」	歴史	20 世紀を振り返り亀岡で起こった様々な事件や出来事を紹介。
13	第 31 回企画展「川からもらったもの～漁撈・利水から～」	民俗	川を相手に繰り広げられた人々の暮らしを紹介。
	第 17 回特別展「発掘－まもる・つくる・たのしむ－」	考古	京都府初の埋文技師故堤圭三郎さんから最後のメッセージ。
	第 32 回企画展「～国学者～安藤一族とその業績」	歴史	丹波国桑田郡千歳郷に居住した国学者安藤一族の業績。
14	第 33 回企画展「遺跡で学ぼう。遺跡で楽しもう。－往時の姿がよみがえる　遺跡の復元－」	考古	亀岡市内を中心とする遺跡を会話形式でわかりやすく紹介。
	第 18 回特別展「－みんなでしらべた－亀岡の生きものたち」	歴史・自然	市民の調査協力で得られた亀岡の自然環境データを公開。
	第 34 回企画展「職人の民俗誌 2～丹波の下駄職人～」	民俗	丹波の下駄職人近藤卓二氏による下駄製作技術の全て。
15	第 35 回企画展「火伏せの愛宕さん～亀岡の愛宕信仰」	民俗	亀岡と京都の境愛宕山に鎮座する火伏の神愛宕信仰の内実。
	第 36 回企画展「発掘された日本列島 2003　地域展発掘された京都」	考古	丹後・丹波・山城三地域の遺跡から歴史文化の形成を描き出す。
	第 19 回特別展「廣瀬桑田　－その生涯と作品－」	歴史	亀岡出身の南画家廣瀬桑田の生涯とその作品を紹介。

年度	展示会名	分野	内容／【　】内は、展示した重要文化財資料名
16	第 37 回企画展関連刊行物「シンポジウム丹波国分寺を考える-記録集Ⅰ-」	考古	丹波国分寺をめぐるシンポジウムの記録集。
	第 38 回企画展「山脇東洋-その医療の系譜-」	歴史	官許を得た人体解剖を初めて行った山脇東洋の実績を紹介。
	第 20 回特別展「京都の人形浄瑠璃」	民俗	京都府とその周辺地域における人形浄瑠璃の伝統を紹介。
17	第 39 回企画展「亀岡発掘Ⅱ」	考古	『新修亀岡市史』刊行後 5 年間の、新たな発掘調査報告。
	第 40 回企画展「亀岡源平ものがたり」	歴史	亀岡に残る、源平にまつわる伝承をもとに、関係資料を紹介。
	第 21 回特別展「タイムスリップ－回想法への扉－」	民俗	過去を思い出し、懐かしむ気持ちを福祉に活かそうとする取り組み「回想法」と、資料館所蔵民具を紹介。
18	第 41 回企画展「亀岡の城下町」	歴史	亀岡の町の基礎である亀山城下町の歴史的変遷と地域構成を古文書・絵図から考察。
	第 22 回特別展「角倉了以・素庵の業績－保津川開削 400 年の歴史－」	歴史	江戸時代初期に船が通るように開さくされた保津川の歴史。
	第 42 回企画展「川船－大堰川の舟運と船大工－」	民俗	大堰川舟運 400 年の歴史と周辺河川の水運の様子、川船の製作工程などの民俗技術・信仰を紹介。／**【金刀比羅宮　保津川下り奉納船】**
19	第 43 回企画展「戦争平和展－戦争遺跡と亀岡－」	歴史	『亀岡の戦争を語りつぐ』報告書の成果をふまえての、はじめての戦争関係展示。
	第 23 回特別展「石棚古墳－120 年前、日本考古学の父、ガウランドが見た鹿谷の古墳－」	考古	全国でも数少ない横穴式石室の全国的な比較検討。亀岡でも明治初期に外国人によって調査され大英博物館に遺物が残る。
	第 44 回企画展「城下町・妖怪文化・サクラ石　みんなでつくろう「亀岡学」」	歴史・自然	ふるさと亀岡の自然と歴史を、「市民協働」により各種関係機関・NPO・市民団体と展示。
20	第 45 回企画展「市史編さんと資料公開－亀山藩主ゆかりの品々と古文書－」	歴史	『新修亀岡市史』終了後 3 年、収集資料の展示と資料公開制度の紹介。
	第 24 回特別展「保津川サカナのハンドブック」	自然	保津川に生息する国の天然記念物アユモドキも展示。自然環境の保全意識も意識。
	第 46 回企画展「養蚕－カイコと桑と繭と－」	民俗	亀岡でも農家の副業として行われた養蚕の歴史。カイコ・綿サークルによる蚕の飼育展示。
21	第 25 回特別展「春の丹波に獅子が舞う―諸国をめぐる伊勢大神楽―」	民俗	春に亀岡にも回ってくる伊勢太神楽は獅子舞を伴う神事芸能ですが、その実態に迫ります。
	第 47 回企画展「丹波の方墳再考！―方墳から丹波の古墳時代中期の謎を解く―」	考古	古墳時代中期の方墳が多く分布する丹波地域。方墳の比較検討と古墳時代を考える。
	第 48 回企画展「今よみがえる石田梅岩の教え」	歴史	江戸時代中期に心学を創始した亀岡出身の石田梅岩、教えとゆかりの品々の紹介。
22	第 26 回特別展「丹波亀山城築城 400 年（光秀・亀山城・城下町テーマで 3 回開催）」	歴史	町のシンボル五重天守築城 400 年を記念して、その歴史を現代の街づくりにつなげる。／**【京都府立総合資料館　京都府行政文書】**
	第 49 回企画展「川東・たんぼの下から郷土のお宝発見！」	考古	国や府のほ場整備事業に伴って行われた、田んぼが広がる川東地区での発掘調査報告。
23	第 50 回企画展「災害から防災へ～祈り・学び・つながる心～」	考・歴	亀岡周辺で起こった過去の災害をとりあげ、防災意識の向上につなげる。
	第 27 回特別展「丹波の祭礼と風流」	民俗	国民文化祭に合わせて、「風流」をテーマにした祭礼について紹介。
	第 51 回企画展「オールドかめおか写真展」	歴史	亀岡市発足以来、広報担当が撮影してきた写真を中心に、地域の移り変わりを紹介。
24	第 52 回企画展「ごみを捨てるべからず-KAMEOKA 保津川からのメッセージ-」	考古・歴史	海ゴミサミット開催を記念して、ごみの歴史を振り返り、一昔前の生活にみられた 3R を紹介。
	第 28 回特別展「道具を使う、道具を作る―職人の民俗誌 3 鍛冶屋さん―」	民俗	亀岡の鍛冶屋について、江戸時代以降の亀岡地域での歴史と技術を紹介。／**【亀岡市　寒天製造道具】**
	第 53 回企画展「かめおか子育て物語」	歴史・民俗	亀岡地域における子育てに関する歴史を、古文書や産婆さん、保育のはじまりなどの項目と、たくさんの写真で紹介。

年度	展示会名	分野	内容／【　】内は、展示した重要文化財資料名
25	第 54 回企画展「丹波亀岡・風景のまなざし」	民俗	「矢田八景」「犬甘野八景」など、亀岡地域の風景を、絵巻や屏風絵、スケッチ画などを通じて紹介。
	第 29 回特別展「これまでの資料館・これからの資料館 ―雑水川、クニッテル通り、技専、文化資料館、そして常設展―」	歴史	これまでの資料館のあゆみや、立地する周辺を含め、亀岡市の目指した施策をたどり、望まれるこれからの資料館を考える機会とする。**【京都府立総合資料館　京都府行政文書】**
	第 55 回企画展「つちのなかからお宝発見！？－かめおかの遺跡を知ろう！学ぼう！！－」	考古	数多く分布する亀岡の遺跡。かめおかのつちのなかから発見されたお宝である考古遺物を紹介。
26	第 56 回企画展「ふるさとの名品―指定文化財の世界―」	歴史	指定文化財をはじめとする貴重な文化財を展示紹介し、ふるさとの名品をじっくり鑑賞できる機会とした。／**【愛宕神社　本殿古材・板唐戸・屋根葺替帳】【亀岡市寒天製造用具】**
	第 57 回企画展「ふるさと亀岡をつづる―福知正温の足跡―」	民俗	学校教育や社会教育の分野でも貢献された福知正温先生の幅広い活動の足跡を追いながら、あわせて亀岡の知られざる魅力を紹介。
	第 30 回特別展「ふるさと亀岡のお城―平城・平山城・山城・城館―」	考古・歴史	ふるさと亀岡のお城を絵図や古文書、出土遺物などを紹介し、中世から近世にかけての亀岡を考える機会とする。
27	第 58 回企画展「ふるさと亀岡の道」	歴史	人々の生活と密接にかかわってきた道の歴史を通してふるさと亀岡を展示紹介。
	第 59 回企画展「戦後 70 年、あの時の亀岡―戦争平和展 2015―」	歴史	残された書類や遺品を展示するとともに、体験者の聞き取りや戦後の記録集などを参考に、戦時中の亀岡を再現することに努めた。
	第 31 回特別展「亀岡の古代寺院と丹波国府」	考古	亀岡に所在する古代寺院、丹波国府や丹波国分寺など主な遺跡から亀岡の古代を考える。

＜参考資料 10＞

亀岡市文化資料館における調査研究・普及活動等への対応件数の推移

	レファレンス対応件数	館内資料利用申請件数	出版物掲載申請件数	講師派遣対応件数
平成 17 年度	92	45	11	20
平成 18 年度	62	45	9	25
平成 19 年度	60	51	14	26
平成 20 年度	59	40	9	48
平成 21 年度	56	48	10	37
平成 22 年度	105	41	22	44
平成 23 年度	75	38	23	54
平成 24 年度	76	31	24	39
平成 25 年度	90	43	22	47
平成 26 年度	97	30	26	55

＊レファレンス対応：資料館への専門的な問い合わせに対する調査回答業務
＊館内資料利用申請：当館所蔵資料の利用（古文書閲覧、熟覧、貸出等）に関する申請件数
＊出版物掲載申請：当館所蔵資料の写真を雑誌や本等に掲載するにあたっての申請件数
＊講師派遣対応件数：地域での講演会や小中学校への出前授業への対応件数

＜参考資料 11＞

亀岡市文化資料館におけるこれまでの連続文化財講座一覧

年度	講　座　名	講　師	人数
昭和63	文化財めぐり　源平ゆかりの地を訪ねてー頼政塚・若宮神社等ー	黒川孝宏（当館）	38
	足利高（尊）氏と篠村八幡宮	黒川孝宏（当館）	63
	文化財めぐり　石への祈りー亀岡の石造美術を訪ねてー	山本寛二郎（石造美術研究家）	40
	古墳時代の亀岡	中澤　勝（当館）	34
	丹波の歌枕	西村隆夫（亀岡市文化財保護委員）	33
	土器づくり教室	山田　稔（陶芸家）	22
平成元	丹波国府について	森下衛（京都府文化財保護課）	74
	天下統一と亀山城	黒川孝宏（当館）	94
	凧づくり教室	鵜飼　均（当館）	10
	篠遺跡発掘調査の成果について	中澤　勝（当館）	57
	明治維新と亀岡	黒川孝宏（当館）	61
2	丹波地域の町屋の町並について	大場修（京都府立大学助手）	65
	亀岡盆地周辺の古墳時代	森下衛（京都府文化財保護課）	50
	太平記と尊（高）氏の人間像	黒川孝宏（当館）	91
	古代の窯業ー篠窯跡群についてー	立花正寛（陶芸家）	31
3	くらしの民俗ータンゴのわすりー	福知正温（立命館大学講師）	42
	明智光秀の丹波支配と城郭	福島克彦（愛知県立知多高等学校教諭）	30
	豪族の居館ー八木町八木嶋遺跡を中心にー	鵜島三壽（京都府埋蔵文化財調査研究センター）	55
	節供行事にみる祈りの心	八木　透（佛教大学講師）	37
4	戦国時代の京都と織田信長	仁木　宏（京都大学文学部助手）	66
	子供歴史教室　丹波亀山城物語	黒川孝宏（当館）	69
	古墳時代のムラー鹿谷遺跡を中心にー	河野一隆（京都府埋蔵文化財調査研究センター）	57
	山の織りと海の織りー藤織りと裂き織りー	井之本泰（京都府立丹後郷土資料館）	59
	亀山城の石垣ー刻印の謎についてー	黒川孝宏（当館）	84
5	南条 3 号墳発掘調査現地見学会	樋口隆久（亀岡市社会教育課）・中澤勝（当館）	76
	江戸時代の生業と生活ー丹波天田郡を中心にー	西村正芳（三和町史編さん室）	38
	土器をつくってみよう！	井筒敏彦（陶芸家）	40
	愛宕信仰と石灯籠	西村隆夫（亀岡市文化財保護委員）	46
6	伏見の船大工	横出洋二（京都府立山城郷土資料館）	37
	丹波・亀山藩の武士たち	磯永和貴（佛教大学講師）	45
	平成 5 年度の発掘調査の成果について	土井孝則（亀岡市社会教育課）・中澤　勝（当館）	38
	人形浄瑠璃の伝播と拡がりー佐伯灯籠を中心にー	池田　淳（吉野町教育委員会）	30
7	丹波・亀岡よもやまばなし	黒川孝宏（当館）	60
	亀岡市千代川遺跡で生活した弥生人をめぐって	深澤芳樹（国立奈良文化財研究所）	43
	亀岡の水車と文化	菱田　治（亀岡市文化資料館友の会）	34
	和知町誌　こぼれ　ばなし	中井丈二（元和知町誌編さん委員会）	28

年度	講　座　名	講　師	人数
8	亀岡市の神社建築	藤澤 彰（京都大学工学部助手）	46
	史跡丹波国分寺跡 6 次発掘調査現地説明会	樋口隆久（亀岡市社会教育課）・中澤勝（当館）・土井孝則（当館）	19
	亀岡の方言	中井幸比古（神戸市学国語大学助教授）	38
	前方後円墳の出現－考古学からみた 3･4 世紀の丹波	高野陽子（京都府埋蔵文化財調査研究センター）	51
9	亀岡市域の伝説	勝田 至（芦屋大学講師）	51
	亀岡の教育の変遷－小学校生活を中心に－	八箇亮仁（河合塾専任講師）	24
	南丹波地域における古墳時代中期の首長について	辻健二郎（園部町教育委員会）	41
	植物の世界－そのユニークな生きさまに学ぶ－	津軽俊介（大本花明山植物園）	63
10	古文書の様相－市史編さん室古文書調査の現場から－	上甲典子（亀岡市史編さん室）	33
	近世亀山藩における武家作法－小笠原流を中心に－	前田一郎（亀岡市史調査執筆委員）	36
	亀岡人の発音の今昔	若林重栄（走田神社宮司）	27
	石棚古墳にみる和歌山と亀岡の比較	河内一浩（羽曳野市教育委員会）	28
11	亀岡祭り囃子の仲間達－祇園囃子系山車囃子の系譜をめぐって－	田井竜一（くらしき作陽大学助教授）	35
	「飛鳥の星空」～キトラ古墳の調査成果から～	西光慎治（明日香村教育委員会）	17
	京都・丹波を結ぶ街道－丹波における流通と都市形成－	福島克彦（大山崎町歴史資料館学芸員）	51
	生徒たちと学ぶ亀岡の歴史	長谷川澄夫（京都府立亀岡高等学校教諭）	26
12	茶の文化史と丹波の茶俗	吉村 亨（京都学園大学教授）	21
	丹波の装飾付須恵器について	山田邦和（花園大学専任講師）	21
	大堰川と角倉了以	辻ミチ子（亀岡市史専門委員）	50
	農具・耕作図から亀岡の歴史を探る	河野通明（神奈川大学教授）	25
13	統一テーマ「新修亀岡市史をひもとく」		
	ふるさと文化遺産探訪！	黒川孝宏（当館館長）	43
	千歳車塚古墳を考える	中澤 勝（亀岡市社会教育課）	25
	民俗誌から見た亀岡	向田明弘（日吉町郷土資料館）	27
	巡礼道と亀岡	石田康男（亀岡市史専門委員）	45
14	統一テーマ「新修亀岡市史をひもとく」		
	新修亀岡市史をひもとく～丹波亀山における領地支配について～	遠山泰之（亀岡市史専門委員）	24
	新修亀岡市史資料編第 2 巻をひもとく～丹波・亀山城～	黒川孝宏（当館館長）	25
	新修亀岡市史資料編第 1 巻をひもとく～亀岡の古代～	原島 修（当館）	18
	新修亀岡市史資料編第 2 巻付図をひもとく～城下町の姿～	小泉 誠（亀岡市史編さん室）	17
15	統一テーマ 「新修亀岡市史をひもとく」		
	亀岡・源平のゆかりの地を訪ねて	黒川孝宏（当館館長）	27
	中世の家族と女性	辻垣晃一（国際日本文化研究センター共同研究員）	18
	人権と疾病差別の歴史	辻ミチ子（亀岡市史専門委員）	14
	南北朝から室町期における軍忠状の「消滅」について	吉田賢司（龍谷大学大学院）	20
16	統一テーマ 「新修亀岡市史をひもとく」		
	保津川流域の稀少魚たち－アユモドキを中心に－	岩田明久（京都大学大学院助教授）	29
	地質学から見た亀岡	井本伸廣（京都教育大学名誉教授）	38
	亀岡の植物－最近の調査結果から－	津軽俊介（大本花明山植物園）	44
	地域の文化・自然遺産を生かしたまちづくり	宗田好史（京都府立大学助教授）	25

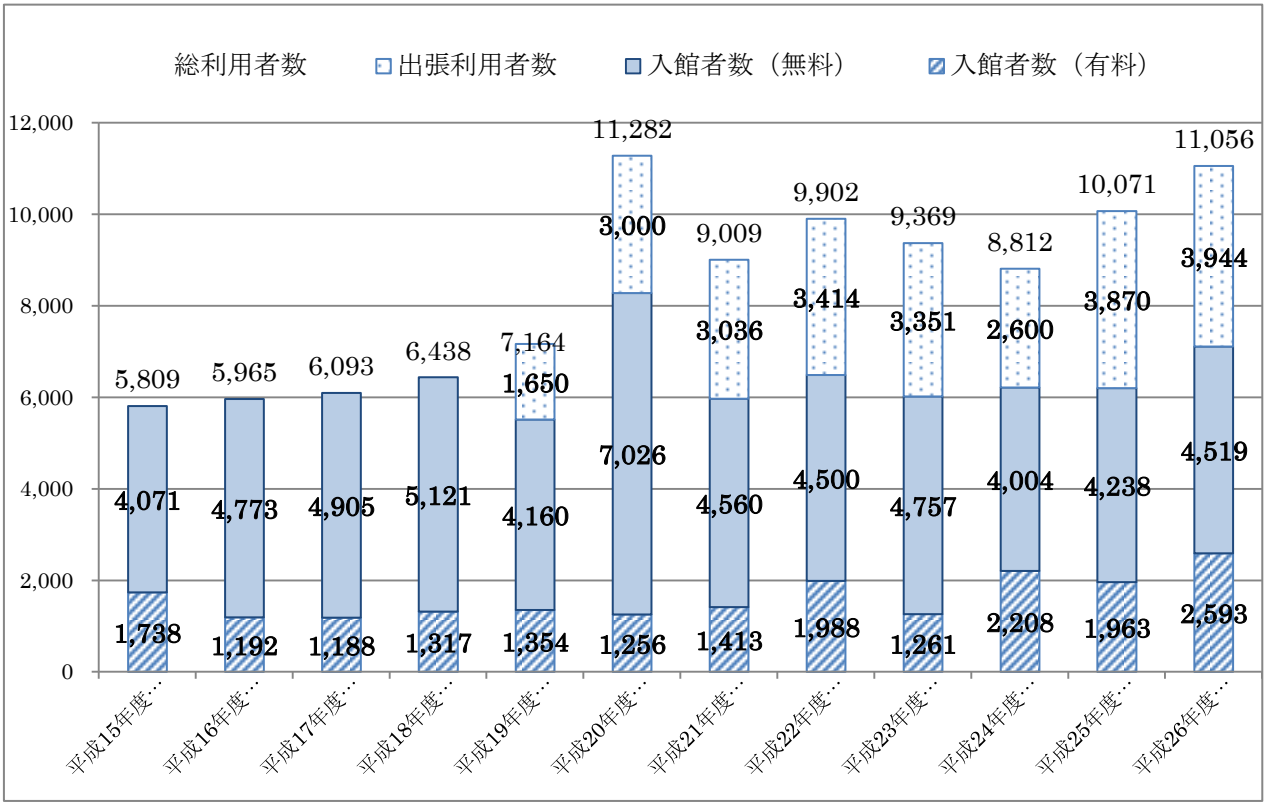
年度	講　　座　　名	講　　師	人数
17	統一テーマ 「新修亀岡市史をひもとく アジアの中の亀岡」		
	アジアの米作りからみた亀岡の農業	安藤和雄（京都大学東南アジア研究所助教授）	17
	ヒガンバナから知る亀岡の農業の歴史	安藤和雄（京都大学東南アジア研究所助教授）	19
	アジアの主食からみる亀岡	安藤和雄（京都大学東南アジア研究所助教授）	25
	アジアから考える亀岡の農業	安藤和雄（京都大学東南アジア研究所助教授）	16
18	保津川開削 400 周年記念 保津川と角倉了以～	黒川孝宏（当館長）	46
	2000 年前の亀岡～田んぼの下にひろがる古代のくらし～	藤井 整（京都府文化財保護課）	40
19	生活衣つれづれ	柿原志津子（福知山市丹波生活衣館）	18
	亀岡の淡水魚から見える原風景	岩田明久（京都大学大学院助教授）	15
20	明治の亀岡の道―京都・宮津間車道の開さく	高久嶺之介（京都橘大学文学部教授）	30
	ひなまつりウォーク（ミニ講座とコンサート）①②	黒川孝宏（当館館長）	7 35
21	統一テーマ 「石田梅岩に学ぶ～暮らしの中に心学の教え～」		
	大型紙芝居の上演と講演	亀岡子どもの本研究会 石田二郎（石門心学開道舎）	26
	大津絵と心学道歌	高橋松山（大津絵師 4 代目松山）	50
	心学道話	花邑弖几（はなむらてん）（語り師）	24
	江戸しぐさと心学	柴田光榮（（株）モアクリエイション代表取締役）	35
22	統一テーマ「丹波山城フィールドワーク」		
	第 1 回 八木城に登ろう！	南丹市八木町南地区自治会	35
	第 2 回 丹波亀山城を探検！	小林喜仁（鹿児島大学人文学部講師）・大本本部	49
	第 3 回 八上城に登ろう！	黒川孝宏（当館館長）	30
	第 4 回 黒井城に登ろう！	福島克彦（大山崎町歴史資料館学芸員）	40
	第 5 回 周山城に挑戦！	福島克彦（大山崎町歴史資料館学芸員）・周山城址を守る会	28
22	統一テーマ 「新修亀岡市史をひもとく アジアの中の亀岡Ⅱ」		
	アジアの農村と亀岡	安藤和雄（京都大学東南アジア研究所助教授）	11
	雲南の棚田、京都の棚田	中村均司（京都大学東南アジア研究所特任教授）	15
	東南アジアの水田の生き物、亀岡の水田の生き物	大西信弘（京都学園大学バイオ環境学部准教授）	12
	亀岡の地域づくりと農村 （講演とパネルディスカッション）	黒川孝宏（当館館長）・安藤和雄（京都大学東南アジア研究所助教授）・中村均司（京都大学東南アジア研究所特任教授）・大西信弘（京都学園大学バイオ環境学部准教授）	9

年度	講　座　名	講　師	人数
23	統一テーマ 「国民文化祭を楽しむための「風流」講座」		
	おどる・はやす・ねりあるく―若狭の祭礼と風流の芸能―～	垣東敏博（福井県立若狭歴史民俗資料館学芸員）	30
	はやす　風流のまつりとしての祇園祭	八木 透（佛教大学歴史学部教授）	35
	ともす　風流化する火―夏の火祭りの諸相―	八木 透（佛教大学歴史学部教授）	24
	うごく　大津祭―曳山のカラクリ―	木津 勝（大津市歴史博物館学芸員）	16
24	統一テーマ 「みんなでつくろう私の資料館」		
	探そう、活かそう、わが町の宝物～資料館活動の楽しみ方～	渡部幹雄（和歌山大学附属図書館・特任教授）	31
	共汗でつくる『新京都市動物園構想』－近くて楽しい動物園づくりをめざして－	秋久成人（京都市動物園副園長）	14
	利用者と共に歩む博物館～これからの博物館に求められるもの～	布谷知夫（三重県立博物館長）	22
	世界をさわる～だれもが楽しめる博物館、資料館をめざして～	広瀬浩二郎（国立民族学博物館調査研究部准教授）	27
25	統一テーマ　「子どもと楽しむ資料館」		
	さわって楽しむ資料館 vol.1　1000 年前の土器にタッチ！	石川梨絵（キッズプラザ大阪 ミュージアムエデュケーター）	16
	ふでばこてんらん会	佐藤優香（東京大学大学院情報学環特任助教）	8
26	統一テーマ　「ふるさと亀岡を探る」		
	亀岡と丹波の古代学	深萱真穂（フリージャーナリスト・元京都新聞社記者）	40
	古代のやきものの里・亀岡　古代土器の一大生産地・篠	石井清司（京都府埋蔵文化財調査研究センター）	36
	明智光秀と亀岡～本能寺の変の視点から～	堀 新（共立女子大学文芸学部教授）	81
	若手研究者による地域資料を利用した亀岡地域研究報告 近世亀山における大嘗会関係の記録 京都の天明大火〈天明８年〉における亀山藩の消火活動 亀岡高等女学校生(現・亀岡高校)の髪型の変化	各務 諒 大邑潤三 千田未央	33
27	統一テーマ　「資料館の“資料”のはなし」		
	“資料”は“たからもの”	永光 寛（亀岡市新資料館構想策定委員会副委員長）	28
	カケラも“たからもの”です	土井孝則（当館）	18
	ふるさとの“たからもの”に込められた祈りと心	樋口隆久（当館）	30
	民具を残そう ―身近な“たからもの”―	伊達仁美（京都造形芸術大学教授）・八木めぐみ（当館）	13
	文化財レスキュー ―“たからもの”を救え―	齋藤 綾（亀岡市社会教育課）・上甲典子（当館）	31
	亀岡の“たからもの”を未来に伝えるために	大野照文（新資料館構想策定委員会委員長）・永光 寛（新資料館構想策定委員会副委員長）・黒川孝宏（当館館長）	25

（敬称略、講師の肩書きは当時のものです。）

＜参考資料 12＞

亀岡市文化資料館の最近の利用者数の推移



＊有料入館者は、展示見学者数（減免対象者も含む）
＊無料入館者は、ロビー利用及び講演会等講座参加者、友の会サークル活動等参加者数
＊出張利用者は、当館職員が地域での講演会や小中学校の出前授業に出向いた先での対象者数

＜参考資料 13＞

亀岡市新資料館構想策定委員会における先進地視察内容

訪問日：平成 27 年 2 月 17 日（火）／訪問者：委員 12 名、事務局 8 名、合計 20 名

訪問先：①**みのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアム**（岐阜県美濃加茂市）

博学連携の実践体制について学ぶ。バックヤードや展示室、移築民家の活用例を見学。

②**南山大学人類学博物館**（愛知県名古屋市）

ユニバーサルミュージアムについての考え方と実践を学ぶ。展示室及び収蔵庫を見学し、実際に展示資料に「さわる」体験や見せる収蔵庫の実例を実感。

訪問日：平成 27 年 3 月 25 日（水）／訪問者：委員 10 名、事務局 7 名、合計 17 名

訪問先：**京都大学総合博物館**（京都市左京区）

自然史系、文化史系、技術史系、それぞれの展示手法を学ぶ。あわせて収蔵庫を見学。資料の素材や種類に応じた収蔵方法や収蔵庫の機能について学ぶ。

訪問日：平成 27 年 6 月 11 日（木）／訪問者：委員 7 名、事務局 11 名、合計 18 名

訪問先：①**南丹市立文化博物館**（南丹市園部町）

複合施設としての特徴や展示室や収蔵庫の規模などを見学。博物館実習生による小学生への展示解説の様子や、収蔵方法や収蔵庫に求められる機能について学ぶ。

②**南丹市日吉町郷土資料館**（南丹市日吉町）

常設展示室の様子や収蔵庫を見学。敷地内の移築民家では、体験場所について実感。

＜参考資料 14＞

亀岡市新資料館構想策定委員会開催スケジュール

	平成 26 年度	平成 27 年度
4 月		
5 月		**第 5 回委員会（5/15）** （新資料館施設整備の方向性）
6 月	新資料館構想策定委員会設置要綱	先進地視察（6/11） （南丹市立文化博物館・日吉町郷土資料館）
7 月	公募委員募集（２名）	**第 6 回委員会（7/7）** （新資料館施設整備の方向性②）
8 月	委員選出	
9 月	**第 1 回委員会（9/7）** （委員委嘱・検討項目と今後のスケジュールの確認）	**第 7 回委員会（9/29）** （新資料館構想素案の作成にむけて）
10 月		
11 月	**第 2 回委員会（11/7）** （館内見学・現状確認・新資料館の理念）	**第 8 回委員会（11/6）** （新資料館構想素案の作成にむけて）
12 月		**第 9 回委員会（12/8）** （新資料館構想素案の作成にむけて）
1 月	**第 3 回委員会（1/30）** （市民協働的分野の活動について）	パブリックコメント（1/13～2/14）
2 月	先進地視察（2/17） （みのかも文化の森・南山大学人類学博物館） **第 4 回委員会（2/24）** （中間報告書の作成について）	
3 月	（中間報告） 先進地視察（3/25） （京都大学総合博物館）	**第 10 回委員会（3/1）** （新資料館構想確認） （最終報告）

＜参考資料 15＞

亀岡市新資料館構想策定委員会委員名簿

委員名	所属等	備考
浅田（あさだ）　勝彦（かつひこ）	市民公募	
伊多波（いたば）　良雄（よしお）	同志社大学経済学部教授	
大野（おおの）　照文（てるふみ）	京都大学総合博物館教授	委員長
加藤（かとう）　美智恵（みちえ）	亀岡市文化資料館友の会副会長	
小林（こばやし）　丈広（たけひろ）	同志社大学文学部教授	
関口（せきぐち）　征治（まさはる）	市民公募	
田中（たなか）　美賀子（みかこ）	NPO 法人亀岡子育てネットワーク理事長	
田中（たなか）　弥生（やよい）	NPO 法人ホップすてーしょん代表	
田中（たなか）　曜次（ようじ）	社会教育委員・京都学園大学人文学部准教授	
中井（なかい）　伸男（のぶお）	小学校教育研究会社会科部（つつじヶ丘小学校教諭）	
永光（ながみつ）　寛（ひろし）	文化財保護委員	副委員長
西田（にしだ）　めぐみ	中学校教育研究会総合的な学習の時間研究部（育親中学校教務主任）	
原田（はらだ）　禎夫（さだお）	夢ビジョンワーキンググループリーダー・大阪商業大学准教授	
船越（ふなこし）　卓（たかし）	亀岡市観光協会事務局長	
計 14 名		（50 音順）